

四 貢 租

I 郷 帳

一三三 御取箇郷帳

○町内中川辺

矢島弓男氏所蔵

(解説) 宝暦一二年(一七六二)の栃井村の田畑総石高と用捨差引分の記録である。用捨分としては、寺の除地、水害による荒地など、また年貢の賦課率の記載もある。

(表紙)

宝暦十二年

午年栃井村御取箇極窺郷帳

午十月

濃州加茂郡栃井村

一 高四百拾石八斗九升

田畑居屋舗共

三合六勺

内

貳拾七石壹合

前々より永引

八斗八升

河嶋武次右衛門揚ヶ屋舗

地ニ引

壹石五斗八升六合

禪原寺境内ニ引

貳石七斗六升

大慶寺堤切レ石砂入申年

より荒地ニ引

小以三拾貳石貳斗貳升七合

有高三百七拾八石六斗六合六勺

高別

高貳百貳拾七石五斗貳升六勺

畑 高

内

高貳拾石

迫地用捨引

高四拾石九斗五升

例年用捨引石ニ壹斗八升

三合八勺 宛

小以六拾石九斗五升三合八勺

残高百六拾五石五斗六升六合八勺

此取米九拾壹石六斗 当免五ツ五步成

壹升壹合七勺四才 去巳同免

本免六ツ

高百五拾壹石壹斗四升六合

田 高

内

八拾三石三斗六升

当午ノ用捨引

五合九勺

貳拾石壹斗八升五合

皆無之分

九斗六升五合

四ツ辻切レ所去ル亥年よ

り荒地ニ引

壹石

例格を以庄屋徳右衛門え

用捨引

小以百五石五斗壹升五合九勺

残高四拾五石六斗三升壹勺

此取米貳拾五石九升

当免五ツ五步成

六合五勺五才

去巳同免

本免六ツ

貳口取米

百拾六石七斗八合貳勺九才

田畑高

都合四百拾石八斗九升三合六勺

内

百九拾八石六斗九升

右引高之分定引共

六合七勺

残毛附

高貳百拾貳石壹斗九升六合九勺

此取米百拾六石

当免五ツ五步成、本免六

七斗八合貳勺九才

ツ、本高ニ貳ツ八步四厘

〇三五、去巳ニ八步八厘

六毛下ル

一米三石五斗壹合貳勺五才

口 米

本口 米百貳拾石貳斗九合五勺四才

一米拾壹石九升九合四勺

夫 米

但有高三百七拾八石六斗六升六合六勺之内、八石

六斗八升九合、九郎治郎所免請高引、残高三百六

拾九石九斗七升七合六勺、此高壹石ニ付米三升宛

掛ケ如斯

一同五石九升

山年貢

三口 合米百三拾六石三斗

去巳ニ三拾七石五斗三升

九升八合九勺四才

壹合八勺七才減ス

右之通当作方旱損毛之様子、入念見分之上引高等吟味
仕、割附御取箇積相目論味御取箇極之儀、奉窺之候以
上

宝曆十二壬午年十月

大嶋三郎右衛門印
山本 権左衛門印
萱野七郎左衛門印

一三四 御成箇米代金勘定帳

○町内中川辺

矢嶋弓男氏所蔵

(解説) 文化一四年(一八一七)の川辺・栃井両村の定
納貢租に対する勘定帳である。主なる支払いには、江戸定
用金、借入金返済、無尽講の掛金、法要費用の支払いな
どであるが、収支は多額の不足金が生じている。

(表紙)

文化十四年

丑年川邊村
栃井村御成箇米代金御払御勘定帳

十二月

川邊村丑年御成箇米御勘定

一米三百八拾七石六斗 川邊村御成箇米開方共
壹升貳合六勺三才

一米拾壹石貳斗六升六合七勺 口 米

一米貳拾三石貳斗八升壹合九勺九才 夫 米

一米八石壹斗三升壹合 山 年貢

四口合米四百三拾石貳斗九升貳合三勺貳才

内

米九斗 例格を以養瑞寺御用捨引

米拾壹石八斗八升 田畑式分通御用捨米五ヶ

五合六勺三才 年定免之内

小以拾貳石七斗八升五合六勺三才

殘米四百拾七石五斗六合六勺三才

去子年六石七斗四升六合増

一米百四拾九石七斗 栃井村御成箇米

七升三合五勺

一米四石四斗九升三合式勺

口米

一米拾壹石壹斗壹升八合五勺五才

夫米

一米五石九升

山年貢

四口合米百七拾石四斗七升五合式勺五才

内

米五石四斗式升四合

田畑式分通御用捨米五ヶ

壹勺五才 年定免之内

殘米百六拾五石五升壹合壹勺

去子年三三石式斗五升四合増

両村定米

都合米五百八拾式石五斗五升七合七勺九才

一米式石九斗七升九合三勺

上ヶ屋鋪並山楠田掟年貢

米

一米四斗

下モ山大洞池敷地年貢、

文化式丑年より下川邊村

より上納之分

一米六石

大嶋三郎右衛門殿拝借米

上納之分

一米三石式斗

井上斧右衛門拝借米上納

四貢租

之分

五口ノ五百九拾五石壹斗三升七合九勺

内

三百拾石九斗式升

御米渡之分別紙帳面相添

六合五勺五才 上ル

殘米式百八拾四石式斗壹升五勺四才

一米式百拾式石八斗六升

江戸川邊御家中御知行米

四合五勺 之分

ノ米四百九拾七石七升五合四才

内

米三百拾壹石六斗

御払米

代金式百六拾四両壹分ト銀八匁壹厘

米百八拾五石四斗七升五合四才

金納

代金百六拾式両式分ト銀拾壹匁八分四厘

金納御値段兩ニ壹石壹斗四升替

二口ノ金四百式拾七両ト銀四匁八分五厘

内

金百八拾六両式分ト

江戸川邊御家中御知行米

銀拾三匁三分九厘 代引

引殘金式百四拾両壹分ト銀六匁四分六厘

一金壹分貳朱

御林山下刈運上

金三兩

無尽掛金之分

一金五拾八兩三分貳朱

御当用先納金借り入之分

金五兩

羽淵与惣左衛門殿御出役

三口ノ金貳百九拾九兩貳分ト銀貳匁四分六厘

御路用金

内

金五拾八兩三分貳朱

当用先納金御返済之分

金四兩

大嶋三郎右衛門殿御出役

銀三百三匁貳分五厘

右之御利足

金三拾五兩壹分

御路用金兩度之分

金貳分

靈洞院様御法事御香料妙

金百拾兩

川邊御家中御給金之分

雲寺渡

銀三拾七匁五分

御定用金

金壹分

玉相院様御法事御香料妙

金五兩壹分ト銀拾貳匁

右之御利足

雲寺渡

金五百九拾四兩貳分ト

江戸川邊御家中二季渡

金壹兩

妙雲寺門瓦代御寄附之分

金八匁九分

金、御利足半金之分

金三分

摂州米見路用儀平渡

銀八匁九分

去ル子年御不足金

金壹兩貳分

大嶋三郎右衛門殿被下置

金八拾九兩壹分ト

右之御利足

候御羽織料兩度之分

銀拾壹匁八分三厘

金貳兩

両村調達金之内え御下ケ

金三拾三兩三分ト

江戸川邊御用御調物並作

金之分

銀壹匁三分三厘

事方其外諸入用

金七兩貳分

沢瀉屋勘四郎方年済金、

金三拾貳兩

経之助様御支度金六月八

酉年より辰年迄八ヶ年之

月兩度ニ上ル

間

銀百四拾四匁

右之御利足

金拾兩

関無尽金渡ス

小以金子三兩ト銀壹匁三分壹厘

内

金貳百九拾九兩貳分ト

帳本印御入金

銀六匁四分六厘

金七拾兩壹分ト

御払山代金請取入

銀拾壹匁五分五厘

引残り
金六百三拾貳兩三分ト

御不足金

銀拾三匁三分

右は丑年御成箇米代金請払、前書之通御勘定仕立奉差上候、若相違之義御座候ハハ、何時ニても仕直し可奉差上候以上

文化十五寅年二月

矢嶋仁左衛門

矢嶋六左衛門

大嶋三郎右衛門殿

羽渕与惣右衛門殿

山本治郎殿

後藤理左衛門殿

三沢良太夫殿

立木理東治殿

右御勘定書面之通相違無御座候以上

四貢租

大嶋三郎右衛門

一三五 御成箇米郷帳

○町内中川辺

矢嶋弓男氏所蔵

〔解説〕 文政一二年（一八二九）の川辺村の田畑総石高と用捨差引の記録である。用捨分としては、寺の除地、飛驒川大水による損地などの記載がある。

（表紙）

文政十二年

子年より辰年迄

川邊村御成箇米窺郷帳

五ヶ年定免

丑十月

濃州加茂郡川邊村

一高八百四拾七石九斗

田畑居屋敷開方共

四升五合

内

三八七

八石貳斗九升壹合六勺 前々より永引、外六升壹

合三勺川欠永引

貳拾石八斗五合 堤敷溝代引

七石五斗壹升五合 御屋舗地引

五石七斗六升四合五勺 御家中屋敷引

六石壹斗四升五勺 妙雲寺境内引

小以四拾八石五斗壹升四合六勺

有高七百九拾九石四斗三升四勺

高別

内

高三百六拾八石貳斗九升四勺 畑 高

内

三拾石 薄地御用捨引

七拾貳石壹斗九合 九ヶ年平均御引高、石ニ

壹勺八才 壹斗九升五合五勺五才ッ

ッ

壹石七斗貳升 明和七寅年より、高三石

七斗三升之分薄地御用捨

引

小以百三石八斗貳升九合壹勺八才

残高貳百六拾四石四斗六升壹合貳勺貳才

此取米百七拾貳石五斗四合三勺貳才

五ヶ年定免六ッ五分貳厘貳毛八六、本免七ッ

高貳拾三石三斗六升四合 開 方

内

四石五斗六升八合 九ヶ年平均御引高、石ニ

八勺三才 壹斗九升五合五勺五才ッ

ッ

貳斗八升 明和七寅年より、高六斗

壹升貳合之分薄地御用捨

引

三升三合 文化十二亥年飛驒川筋大

水ニ付川欠永引

小以四石八斗八升壹合八勺三才

残高拾八石四斗八升貳合壹勺五才

此取来拾貳石五升五合六勺六才

五ヶ年定免六ッ五分貳厘貳毛八六、本免七ッ

高四百七石七斗七升六合 田 高

内

四升 文政三寅年飛驒川筋大

(辰)

水ニ付川欠永引

九拾五石四斗壹升

九ヶ年平均御引高、石ニ

七合七勺六才

壹斗九升五合五勺五才ッ

ッ

壹石

例格ヲ以庄屋太兵衛え御

用捨引

小以九拾五石四斗五升七合七勺六才

残高三百拾貳石三斗壹升八合貳勺四才

此取米貳百三石六斗九升壹合七勺七才

五ヶ年定免六ッ五分貳厘壹毛九三、本免七ッ

三口取米

ノ三百八拾八石貳斗五升壹合七勺五才

田畑都合

高八百四拾七石九斗四升五合

内

高貳百五拾貳石六斗

右引高之分定引共

四升三合三勺三才

残毛附

高五百九拾五石貳斗六升壹合六勺三才

三口取米

ノ三百八拾八石貳斗五升壹合七勺五才

五ヶ年定免六ッ五分貳厘貳毛三七五、本免七ッ

四 貢 租

一米拾壹石貳斗八升五合八勺八才

口 米

但取米三百七拾六石壹斗九升六合九才之内、開方

取米拾貳石五升五合六勺六才、引残米ニ米三升宛

掛如斯

一米貳拾三石貳斗八升壹合九勺九才

夫 米

但し有高七百九拾九石四斗三升四勺之内、貳拾三

石三斗六升四合開方高、引残高七百七拾六石六升

六合四勺、此高壹石ニ付米三升宛掛如斯

一米八石壹斗三升壹合

山年貢

四口合
米四百三拾石九斗五升六勺貳才

内

米九斗

例格ヲ以養瑞寺え御用捨

引

米拾壹石九斗

毛附高ニ田畑貳分通、御

五合貳勺三才

用捨米五ヶ年之間

小以米拾貳石八斗五合貳勺三才

残米四百拾八石壹斗四升五合三勺九才

右之通当作方損毛引高等入念吟味仕、御成箇米相目論

味御取箇極之儀奉窺之候以上

文政十二丑年十月

三八九

後藤唯之丞
三沢良太夫
野田對助
箕田源藏
大嶋 貢

右村高之内
納引受高貳百石
此金収納金百三拾兩余
内

金百兩 当御役所え可相納分
家数百貳拾軒

人別 男貳百八拾人
女貳百九拾八人

右之通相違無御座候以上

天保十亥年六月

○川辺町所蔵
(西村家文書)

一三六 物成米金仕訳帳

(解説) 天保一〇年(一八三九)の川辺村年貢米の支途を記録したものである。金納のほとんどが幕府上部機関に上納となっているが、恐らく借入金返済したものと思われる。また別紙に、江戸廻船荷物のことが記載してある。

(表紙)

天保十年

村々物成米金仕訳帳

亥六月

大嶋甲斐守知行
美濃国加茂郡川邊村

多羅尾織之助様
信樂
御役所

江戸廻船御荷物之事

正月分
一米貳拾俵 但四斗貳升入

此貫目老俵二付 拾六貫六百目拾俵
拾六貫七百目六俵

右村百姓代
年 利兵衛印
寄 弥助印
庄 屋 太兵衛印

拾六貫八百目四俵

右之通船壹艘ニ積入、今般勢州桑名佐藤孫右衛門方え
向致廻船候、着岸之砌御請取可被成候以上

卯十二月

大嶋友之丞印

後藤唯之丞殿

三沢良大夫殿

野田對助殿

箕田源藏殿

一三七 御成箇米代金勘定帳

○川辺町所藏
(西村家文書)

(解説) 天保一五年(一八四四)の川辺・栃井両村の定
納貢租に対する勘定帳である。主なる支払いには、江戸へ
の定用金、大嶋氏家臣知行米と路用金、借入金と講掛金、
妙雲寺香料と法事および、江戸近火の諸費用の支払いなど
がある。かなり厳しい財政事情をうかがうことができる。

四 貢 租

(表紙)

天保十五年

辰年川邊村
栃井村御成箇米代金請払御勘定帳

十二月

当番

西村才右衛門控

川邊村辰年御成箇米御勘定

一米三百七拾七石三斗

川邊村御成箇開方共

壹升六合四勺四才

一米拾石九斗七升式合三勺八才

口 米

一米貳拾三石貳斗八升壹合九勺九才

夫 米

一米八石壹斗三升壹合

山年貢

四口合米四百拾九石七斗壹合八勺壹才

内

米九斗

例格を以養瑞寺御用捨引

米拾壹石五斗六升

毛附高ニ田畑式分通御用

九合八勺六才 捨引五ヶ年之間

小以米拾貳石四斗六升九合八勺六才

殘米四百七石貳斗三升壹合九勺五才

一米百四拾七石壹斗

栃井村御成箇米

八合六勺

一米四石四斗壹升三合貳勺

口 米

一米拾壹石壹斗壹升八合五勺五才

夫 米

一米五石九升

山年貢

四口合百六拾七石七斗三升三勺五才

内

米五石三斗貳升

毛附高二田畑貳分通御用

七合六勺壹才

捨引五ヶ年之間

殘米百六拾貳石四斗貳合七勺四才

兩村定米

都合米五百六拾九石六斗三升四合六勺九才

一米三石壹斗八升四合

上屋舗並山楠田掟年貢共

八勺壹才

一米四斗

下山大洞池敷地年貢、文

(亥) 化十二丑年より下川邊

村より上納

一米六石

大嶋友之丞殿御拝借米上

納分

四口ノ米五百七拾九石貳斗壹升九合五勺

内

米七拾七石四斗九升四合 御米渡之分別紙帳面相添

上ル

殘米五百壹石七斗貳升五合五勺

内

米三百四拾壹石六斗

御払米

代金四百三拾九兩壹分ト銀七匁壹分七厘

米百六拾石壹斗貳升五合五勺

金 納

代金貳百拾兩貳分ト銀拾壹匁四分九厘

金納御値段兩七斗六升替

内

貳口ノ金六百五拾兩ト銀三匁六分六厘

銀壹匁

江戸川邊御家中御知行米

御扶持米、百七拾八石貳

斗三升貳合七勺代金引、

兩七斗六升替

引殘金四百拾五兩貳分ト銀貳匁六分六厘

一金壹分貳朱

御林山下刈御運上

貳口ノ金四百拾五兩三分ト銀拾匁壹分六厘

内

金拾五兩三分ト

御当用先納金五拾三兩壹

銀拾三匁貳分九厘 分之御利足、別紙帳面相

添上ル

金百兩

御定用金差下ス

金四拾壹兩三分ト

江戸川邊御用御調物其外

銀貳匁三分五厘

御小弘共

金三拾五兩壹分

川邊御家中御給金之分

金壹分

御代香正月七月兩度之分

妙雲寺え渡

金三拾四兩貳分ト

関御役所拾貳会講利銀、

銀四匁貳分九厘

内金拾兩壹分ト銀拾匁七

分壹厘利戻し受取、引残

如此

金四兩

大教院様 靈洞院様 御法事御割合金

貳拾兩、内川邊出分差下

ス

金貳分

大教院様 靈洞院様 御法事御代香料

妙雲寺え渡

金五兩

若殿様御□□御祝儀御割

合御臨時川邊出分差下

金拾兩

正月廿七日江戸御近火ニ

四 貢 租

付、金五拾兩之御割合御

臨時川邊出分差下ス

金壹兩貳分ト銀六匁

近江講金貳拾兩、関ニテ

持□御掛金関え相渡ス

金五兩

後藤唯之丞殿御出役御路

用金相渡ス

金五兩壹分ト

山田金関え拝借金三百兩

之内、当方え分借百兩、

同断江戸表え分借百兩、

×金貳百兩半利、路用並

諸入用共

金四拾兩

信樂拝借金貳百兩卯暮御

かり入、辰より申迄元金

御返済尤辰年分

金貳拾兩

右元金貳百兩分、辰暮御

利足金相渡ス

金壹兩貳分ト

川邊被下米内、子年より

銀貳匁三分七厘

辰年迄五ヶ年間、御借増

米壹石壹斗七升、兩七斗

六升替

金拾四両

遠州屋徳三郎方にて元金

金四百拾五両三分ト

帳元御入金

式百両御借入七月迄、利

銀拾匁分六厘

金六月差下ス

引残金四拾四両三分ト

辰年御過金

金拾両

遠州屋徳三郎方にて元金

銀五分九厘

式百両御借入十二月迄、

内

利金十二月差下ス

金拾四両ト六匁八分

巳六月十三日、江戸表差

金三両式分

近江講金三拾五両御かり

下ス

入、右四度之御利金

一金九百四拾両式分ト

去卯年御不足金当辰年御

金貳両

右同断金貳拾両川邊にて

銀六匁八分八厘

借入差引如此

金拾六両ト

御かり入、四度之御利金

内此訳

山田金関え拝借之内、当

銀六匁七分四厘

卯年江戸下シ御扶持米代

金百両

方え分借かり入

並諸入用共、勘定不足分

金百両

山田金関え拝借之内、江

矢嶋八右衛門取替、辰冬

戸表え分借かり入、卯年

金拾六両ト

同人え渡ス

より引受相成

銀六匁七分四厘

卯年江戸下シ御扶持米代

金貳百両

遠州屋徳三郎方にて御預

並諸入用共、勘定不足分

ケ物御借入、卯年引受相

矢嶋八右衛門取替、辰冬

成

同人え渡

内

金貳百両

卯年信楽金御借入元金

小以金三百七拾壹両ト銀九匁五分七厘

金四拾両式分ト

六拾人講金借入

銀六匁八分八厘

金百五拾兩

関御役所御取立拾式会講

ニて講金戌之五月御借入

金百五拾兩

関御役所御取立拾式会講

ニて講金卯四月御借入

小以金九百四拾兩式分ト銀六匁八分八厘

右は辰年御成箇米代金請払、前書之通御勘定仕立奉差上候、若相違之儀御座候ハハ、何時成共仕直可奉差上候以上

弘化二巳年二月

西村 甚三郎印

西村才右衛門印

矢嶋八右衛門印

後藤 唯之丞殿

箕田要左衛門殿

大嶋 友之丞殿

助川 善兵衛殿

安野孫右衛門殿

三沢 良助殿

右御勘定書面之通相違無御座候以上

四 貢 租

大嶋友之丞

一三八 御成箇米代金勘定帳

○川辺町所蔵
(西村家文書)

(解説)

弘化三年(一八四六)の川辺・栃井両村の定納貢租に対する勘定帳である。主なる支払いは、江戸への定用金、大嶋氏家臣知行米、借入金と講掛金、江戸菩提寺の費用、馬部屋・土蔵修理代などの支払いである。また領主の鎌倉八幡宮心願費用、子女衣服料もあって、収支が不足のため再度借り入れを行っている。

(表紙)

弘化三年

午年川邊村
栃井村 御成箇米代金請払御勘定帳

十二月

川邊村午年御成箇米御勘定

一米三百八拾七石五斗

川邊村御成箇開方共

三九五

九升九合五勺五才

引五ヶ年之間

一米拾壹石貳斗六升六合三勺壹才

口 米

一米貳拾三石貳斗八升壹合九勺九才

夫 米

一米八石壹斗三升壹合

山年貢

四口合米四百三拾石貳斗七升八合八勺五才

内

米九斗

例格を以養瑞寺え御用捨
引

米捨壹石九斗

毛附高二田畑貳分通御用

五合貳勺三才 捨米五ヶ年間

小以米拾貳石八斗五合貳勺三才

殘米四百拾七石四斗七升三合六勺貳才

一米百四拾八石四斗

栃井村御成箇米

三升三勺四才

一米四石四斗五升貳合九勺壹才

口 米

一米拾壹石壹斗壹升八合五勺五才

夫 米

一米五石九升

山年貢

四口合米百六拾九石九升壹合八勺

内

米五石三斗七升五合五勺

毛附高田畑貳分通御用捨

殘米百六拾三石七斗壹升六合三勺

兩村定米

都合米五百八拾壹石壹斗八升九合九勺貳才

一米三石壹斗八升四合八勺

上屋舗並山楠田掟年貢共

一米四斗

下山大洞池敷地年貢、文

(亥)
化十二丑年より下川邊

村より上納

一米六石

大嶋友之丞殿御拝借米上

納分

四口ノ米五百九拾石七斗七升四合七勺貳才

内

米九拾八石八斗六升

御米渡之分別紙帳面相添

三合五勺 上ル

殘米四百九拾壹石八斗壹升壹合貳勺貳才

内

米三百貳拾四石四斗

御払米

代金三百八拾四兩貳分ト銀八匁八分五厘

米百六拾七石四斗壹升

金 納

壹合貳勺貳才

代金貳百六兩貳分ト銀拾匁八分三厘

金納御値段兩八斗壹升替

貳口ノ金五百九拾壹兩壹分ト銀四匁六分八厘

内

金貳百三拾七兩壹分ト

江戸川邊御家中御知行米

銀拾匁壹厘

御扶持米、百九拾貳石三

斗七合七勺代金引、兩八

斗壹升替

引殘金三百五拾三兩三分ト銀九匁六分七厘

一金壹分貳朱

御林山下刈御運上

貳口ノ金三百五拾四兩壹分ト銀貳匁壹分七厘

内

金貳拾貳兩貳分ト

御当用先納金九拾八兩之

銀拾四匁壹分九厘

御利足、別紙帳面相添上

ル

金百兩

御定用金差下ス

金貳兩

御姫様御衣服料御定用増

三ヶ所割、川邊出金差下

ス

金六拾五兩壹分ト

江戸川邊御用御調物、其

銀拾貳匁九分壹厘

外御小払共

金四拾兩壹分

川邊御家中御給金之分

金壹分

御代香正月七月兩度之分

妙雲寺え渡

金貳兩

御前様鎌倉八幡宮え御心

願御臨時金拾兩之割合、

川邊出金

金六兩貳分ト

関御役所御取立拾六会講

銀六匁九分五厘

午貳会目貳分五厘惣金

金貳分ト銀拾匁

右講会雜用金貳兩之割

合、貳分五厘関え渡

金三兩

御近火御臨時金拾五兩割

合、川邊出金

金六兩

御馬部屋・土蔵御破損金

御臨時金三拾兩之割、川

邊出金

金三兩

江戸辻番所御修復御臨時

金拾五兩割合、川邊出金

金四兩

助川善兵衛殿御出役御路

用金相渡

金貳両

金九兩貳朱ト

天真寺御割金巳年より酉年迄五ヶ年、尤七月十二月兩度金貳兩ツツ出金之筈、川邊出金

銀三匁壹分貳厘

助川善兵衛殿御出役江戸御扶持増米貳拾俵被仰付、右代金並諸入用共如此

金壹兩

金四拾兩

大長寺御割合巳之年より午年迄貳ヶ年、尤年ニ金壹兩ツツ出金之筈、川邊出金

金拾貳兩

金四拾三兩ト

山田拝借金貳百兩□□見

銀六匁八分

金壹兩貳分ト銀六匁

込之处、卯巳貳ヶ年利延引分午三月八月兩度利銀上納

金貳拾五兩壹分

金拾壹兩壹分ト

右利納ニ付御師より飛脚

銀四匁貳分四厘

並諸造用共出金

金拾四兩

遠州屋徳三郎方にて元金

金壹兩貳分

貳百兩御借り入、七月迄之利金午六月差下ス

金拾兩

金三兩

右同人にて元金貳百兩御借入、十二月迄之利金午十二月差下ス

安野孫右衛門殿五ヶ年済、午三月七月暮三度ニ矢嶋八兵衛え渡ス

右路用金立木朔右衛門殿え渡

メ貳百兩午暮利納

同断江戸表え分借百兩、之内、当方え分借百兩、

山田金関え拝借金三百兩口御掛金関え相渡ス

近江講金貳拾兩関にて持足金相渡ス

右元金貳百兩分午暮御利返済、尤午年分

信楽拝借金貳百兩卯暮御

借入、辰より申迄元金御

金三兩

御同人五ヶ年済、午三月

七月暮三度ニ鹿取彦兵衛

え渡

金貳拾九兩ト

巳年江戸下米御扶持米代

銀四匁貳分五厘

並、諸入用共勘定不足、

矢嶋八右衛門取替午暮同

人渡

金壹兩貳分ト

川邊被下米之内、辰年よ

銀四匁壹分六厘

り申年迄五ヶ年間御借増

米壹石壹斗七升、兩八斗

壹升替

小以金四百六拾三兩貳分ト銀五匁八厘

内

金三百五拾四兩壹分ト

帳元御入金

銀貳匁壹分七厘

引殘金百九兩壹分ト

当午年御勘定不足御借入

銀貳匁九分壹厘

ニ仕候

一金五百貳拾兩貳分ト

去巳年御不足金当午年御

銀六匁八分八厘

借り入差引如此

内

金百兩

山田金関え拝借之内、当

方え分借かり入

金百兩

山田金関え拝借之内、江

戸表え分借かり入、卯年

より引受相成

金貳百兩

遠州屋徳三郎方ニて御預

ケ物御借入、卯年より引

受相成

金八拾兩

卯年信楽金貳百兩御借入

元金引殘如此

金四拾兩貳分ト

六拾人講金御借入

銀六匁八分八厘

小以金五百貳拾兩貳分ト銀六匁八分八厘

外ニ
金百九兩壹分ト

当午御勘定不足分

銀貳匁九分壹厘

右は午年御成箇米代金請払、前書之通御勘定仕立奉差

上候、若相違之儀御座候ハハ、何時成共仕直可奉差上

候以上

弘化四未年二月

西村 甚三郎印

西村才右衛門印
矢嶋八右衛門印

後藤 唯之丞殿

箕田要左衛門殿

大嶋 友之丞殿

助川 善兵衛殿

三沢 良 助殿

右御勘定書面之通相違無御座候以上

大嶋友之丞印

一三九 物成米金仕訳帳

○川辺町所蔵
(西村家文書)

(解説) 嘉永二年(一八四九)の中川辺村の貢租仕訳である。一か年間の年貢高と換算額が記載してあるが、幕府役所への納付高も明記してある。

(表紙)

嘉永二年

村々物成米金仕訳帳

酉十二月

大嶋甲斐守知行

濃州加茂郡川邊村

覚

一 高八百四拾七石九斗四升五合 大嶋甲斐守知行
濃州加茂郡川邊村

壹ヶ年物成

米四百拾九石六斗

金九拾七兩貳分銀拾匁九分七厘

内

米七拾七石五斗四升 年々渡方

金三拾壹兩三分ト 同断

銀拾貳匁

残て

米三百四拾貳石六升 但五ヶ年平均所相場・金壹
兩二付八斗替

代金四百貳拾七兩貳分ト銀四匁五分

金六拾五兩貳分ト銀拾三匁九分七厘

合金四百九拾三兩 外ニ小物成無御座候

壹分ト銀三匁四分七厘

此永五拾七文八分

右村高之内

納引請高四百石

此金收納金貳百三拾貳兩余

内

金六拾兩

当御役所え可相納分

家数貳百軒

人別

男三百三人
女貳百九拾四人

右之通相違無御座候以上

嘉永二酉年十二月

右村百姓代

利兵衛 印

年寄 助 印

弥屋 太兵衛 印

庄 太兵衛 印

多羅尾久右衛門様

信樂

御役所

一四〇 御成箇米代金勘定帳

○川辺町所蔵
(西村家文書)

(解説) 安政三年(一八五六)の川辺・栃井両村の定納

貢租に対する勘定帳である。主なる支払いには、定用金・講掛金・法要費用など、そのほか年々の借入金の累積から、利息の支払いが相当の額になっていることがわかる。大嶋氏の収支は、ばくだいな借財で賄われていて、その財政はまさに破たん状態となっている。

(表紙)

安政三年

辰年 川邊村御成箇米代金請払御勘定帳

十二月

川邊村辰年御成箇米御勘定

一米三百八拾七石五斗 川邊村御成箇開方共

九升九合五勺八才

一米拾壹石貳斗六升六合三勺壹才七 口 米

一米貳拾三石貳斗八升壹合九勺三才 夫 米

一米八石壹斗三升壹合 山年貢

四口合米四百三拾石貳斗七升八合八勺貳才七
内

米九斗 例格を以養瑞寺え御用捨

引

米拾壹石八斗八升 毛附高ニ田畑貳分通御用

五合壹勺九才貳 捨米五ヶ年之間

小以米拾貳石七斗八升五合壹勺九才貳

殘米四百拾七石四斗九升三合六勺三才五

一米百四拾九石七斗七升 栃井村御成箇米

三合五勺壹才

一米四石四斗九升三合貳勺 口 米

一米拾壹石壹斗一升 夫 米

八合五勺五才

一米五石九升 山年貢

四口合米百七拾石四斗七升五合貳勺六才

内

米貳斗四升八合 去卯年雄川筋大水ニ付、
(鳥)

土居切砂入之場所皆無高

七斗三升三合引高之处、

起返り引殘高四斗四升九

合取米、依願卯年より未
年迄五ヶ年之間御用捨引

米五石四斗貳升 毛附高ニ田畑貳分通り御

四合壹勺五才 用捨米五ヶ年之間

殘米百六拾四石八斗三合壹勺壹才

都合米^{兩村定米}五百八拾貳石貳斗九升六合七勺四才五

一米貳石九斗七升四合五勺 上屋舖並山楠田掟年貢共

一米四斗 下山大洞池敷地年貢、文
(亥)

化十二丑年より下川邊

村より上納

一米六石 大嶋友之丞殿より御拝借

米上納分

四口ノ米五百九拾壹石六斗七升壹合貳勺四才五

内

米九拾五石九斗 御米渡之分別紙帳面相添

壹合八勺 上ル

殘米四百九拾五石七斗六升九合四勺四才五

内

米四百五拾四石四斗

御払米

代金五百六兩貳分ト銀九匁壹分四厘

米四拾壹石三斗六升九合四勺四才五

金納

代金四拾七兩貳分ト銀三匁七厘

金納御値段兩八斗七升替

式口ノ金五百五拾四兩ト銀拾貳匁貳分壹厘

内

金貳百三拾九兩ト

江戸川邊御家中御知行米

銀壹匁八分三厘

御扶持方、貳百七石九斗

五升六合五勺、代金引兩

八斗七升替

引テ
金三百拾五兩ト銀拾匁三分八厘

内

金貳拾兩ト

御当用先納金百九拾六兩

銀拾四匁貳分三厘

壹分ト銀六分五厘、御利

足別紙帳面相添上ル

金百兩

御定用金差下ス

金三兩

御奥方様御服料増、三ヶ

所割合川邊出金

金三拾八兩三分貳朱ト

川邊御家中御給金渡ス

銀四匁九分五厘

金五拾壹兩ト

江戸川邊御用御調もの、

銀九匁七分八厘

其外御小払とも

金壹分

御代香正月七月兩度之分

妙雲寺え渡ス

金壹分貳朱

大智院様・浄道院様御法

事御香料同寺え渡ス

金四兩

大智院様七回御忌御法

事、三ヶ所割合御臨時川

邊出金下ス

金貳拾八兩壹分貳朱

御家督御進達御入用御臨

時、三ヶ所割合川邊出金

金貳拾兩

御風破御入用御臨時金百

兩、三ヶ所割合川邊出金

金貳拾七兩三分ト

大殿様御分米代金度々差

銀六匁五分五厘

下ス、川邊出金

金五兩

大嶋八三郎殿御出役御路

用、三ヶ所割合川邊出金

金拾兩

江戸三金主辰暮年賦金割

合川邊出金

金拾六兩壹分ト

午御勘定御不足金百九兩

金八兩貳分ト

銀八匁六分八厘

壹分ト銀貳匁九分壹厘、

銀三匁三分五厘

関御役所御取立拾六会講、辰拾貳会目利御掛金

辰一ケ年御利足

共相渡

金貳兩ト銀七匁三分壹厘

未御勘定御不足金拾四兩

金三分

右御雜用金割合出金

ト銀八匁七分四厘、辰一ケ年御利足

金拾兩

矢嶋八郎左衛門御普請御

申御勘定御不足金六拾五

用付出府、右路用相渡ス

金八兩ト銀五分四厘

兩壹分ト銀四分八厘之

金四拾兩

信樂拝借金貳百兩卯暮御

處、内金拾三兩三分ト銀

借入、辰暮元金御返納

六匁五分四厘六毛、酉御

金貳拾兩

右元金貳百兩之分辰年御

勘定御返金之内、請取引

利足相渡ス

金五拾三兩壹分ト銀八匁

金七兩

金百兩講辰七会目、矢嶋

九分三厘四毛、辰一ケ年

甚左衛門取立壱口懸ケ金

御利足

渡ス

金拾貳兩貳分貳朱

金拾貳兩三分ト

戌御勘定御不足金八拾五

山田拝借金三百兩之内、

銀貳匁八分八厘

兩壹分ト銀四匁貳分一

金拾貳兩貳分貳朱

山田拝借金三百兩之内、

厘、辰一ケ年御利足

江戸表え御借り入金百兩

金三拾兩壹分ト

亥御勘定御不足金貳百三

利銀

銀拾四匁七分七厘

兩壹分ト銀三匁四分九

金四兩三分

右御雜用金相渡ス

厘、辰一ケ年御利足

金拾九兩三分ト

子御勘定御不足金百三拾

銀五匁七分四厘

式兩壹分ト銀三匁七分七

厘御利足

金拾七兩ト銀八匁六厘

丑御勘定御不足金百拾四

兩ト銀拾三匁八分式厘御

利足

金八兩壹分ト

寅御勘定御不足金五拾五

銀三匁一分三厘

兩壹分ト銀五匁八分七厘

御利足

金拾五兩三分ト

卯御勘定御定金百五兩壹

銀四匁式厘

分ト銀拾三匁八分九厘御

利足

小以金五百五拾六兩壹分式朱ト銀三匁七分九厘

内

金三百拾五兩ト

帳元御入金

銀拾匁三分八厘

引金式百四拾壹兩壹分ト

当辰年御不足他借御借り

銀九分壹厘

入ニ仕候

一金千百拾三兩壹分ト

当辰年迄御不足御借り入

銀拾匁式厘九毛

差引如此

内

金百兩

山田金関え拝借之内、当
方え分借かり入

金百兩

山田金関え拝借之内江戸
表え分借かり入、卯年よ

り引受ニ相成

金四拾兩式分ト

六拾人講金御借り入

銀六匁八分八厘

金百九兩壹分ト

午年御勘定御不足金御借

銀式匁九分一厘

金拾四兩ト

未年御勘定御不足金御借

銀八匁七分四厘

金五拾三兩壹分ト

申年御勘定御不足金御借

銀八匁九分三厘四毛

金八拾五兩壹分ト

戌年御勘定御不足金御借

銀四匁式分一厘

金式百三兩壹分ト

亥年御勘定御不足金御借

銀三匁四分九厘八毛

金百三拾式兩壹分ト

子年御勘定御不足金御借

銀三匁式分七厘

り入

第二部 文書の部

四〇六

金百拾四兩ト

丑年御勘定御不足金御借

箕田市郎殿

銀拾三匁八分貳厘七毛

り入

助川善司殿

金五拾五兩壹分ト

寅年御勘定御不足金御借

右御勘定書面之通相違無御座候

銀五匁八分七厘

り入

大嶋友之丞

金百五兩壹分ト

卯年御勘定御不足金御借

銀拾壹匁八分九厘

り入

外二
金千百拾三兩壹分ト銀拾匁貳厘九毛

金貳百四拾壹兩壹分ト

当辰年御勘定御不足分

銀九分壹厘

右は辰年御成箇米代金請払、前書之通御勘定仕立奉差
上候、若相違之儀御座候ハハ、何時成共仕直可奉差上
候以上

安政四巳年二月

西村甚三郎^印

西村才右衛門^印

矢嶋八右衛門^印

大嶋友之丞殿

後藤彦八殿

羽淵重兵衛殿

大嶋八三郎殿

Ⅱ 検見・定免

一四一 鹿塩村年貢免状

○町内鹿塩

鹿塩区所蔵

(解説) 承応元年(一六五二)の鹿塩村下組の年貢免状である。村高に対して領主が課税して通知する令書で、当時鹿塩村は大嶋氏の所領であり、作柄によって決めた割付状である。

辰之免定

一高百五拾石三斗

加茂郡

鹿塩村

内高八拾三石八斗八升八合

田方日損

同式拾五石壹斗五升

畑方日損

同小以百九石三升八合

引残四拾壹石式斗六升式合

四貢租

此取拾石三斗壹升五合

但式ッ五歩

右之通百姓中立合高下無之様ニ割付仕、極月廿日以前ニ皆済可仕者也

承応元年辰霜月廿八日

大 三郎右衛門 印

伍 十右衛門 印

大 勘 兵 衛 印

百姓中

一四二 上川辺村年貢免状

○町内上川辺

上川辺区所蔵

(解説) 寛文三年(一六六三)の上川辺村の年貢免状である。当時上川辺村は大嶋氏の所領で、不作分の引き高も多く、作柄の悪い割付状である。

濃州加茂郡上川邊村卯之免定

一高六百四拾五石八斗七升

田畑居屋敷共

四〇七

内

高拾五石四升七合

年々永不作

同百九拾六石四斗三升五合

当日損

同九拾七石八斗

畑方三ヶ一引

小以三百九石貳斗八升貳合

残高三百三拾六石五斗八升八合

此取百七拾八石三斗九升貳合

高二五ツ三步

右之通惣百姓中立合無高下致割付、来極月十日以前皆
済可仕者也

寛文三年卯霜月十一日

大 三郎右衛門 印

朝 源左衛門 印

大 十 兵 衛 印

伍 十右衛門 印

上川邊村

惣百姓中

追免之事

一 残高二式步通

上川^(邊)部村

右之通惣百姓中無相違割付可仕者也

寛文三年卯霜月十七日

大 十 兵 衛 印

伍 十右衛門 印

朝 源左衛門 印

大 三郎右衛門 印

上川邊村

惣百姓中

一四三 下吉田村年貢免状

○町内下吉田

下吉田区所藏

(解説) 天和二年(一六八二)の下吉田村の年貢免状で

ある。下吉田村は尾張藩領で、代官役人名で庄屋宛に通知
した令書であるが、一部は麦上納を認めている。

戌之年免定

一 高三百四拾石七斗八升七合

内貳拾九石八斗壹合

加茂郡

下吉田村

当検見無記

残高三百拾石九斗八升六合

取米百三拾石九斗貳升六合

高三ッ八分四厘

壹毛余、残高四

ッ貳分壹厘

内七石七斗

麦拾五石四斗ニ

て納

一米三升

当戌ノ改出し見

取

米合百三拾石九斗五升六合

内七石七斗

麦拾五石四斗ニ

て納

右是は当戌之年御免相如斯相究、検見畝引小帳相添遣し候間、庄屋与頭小百姓不残立合、以来申分無之様ニ無高下致割付、極月十日以前ニ急度可皆納者也

天和貳年戌十二月

五味所左衛門^印

下吉田村

庄屋中

四 貢 租

一四四 鹿塩村年貢免状

○町内鹿塩

鹿塩区所蔵

(解説) 貞享元年(一六八四)の鹿塩村下組の年貢免状である。当時鹿塩村は大嶋氏の所領であり、作柄の悪いものを差し引いた割付状である。

濃州賀茂郡鹿塩村子之免定

一高百五拾石三斗

田畑居屋敷共

内六石壹斗六升五合

当日損穂枯引

残高百四拾四石壹斗三升五合

此取五拾三石九斗五升八合

本高三ッ五分

九厘、残高三

ッ七分四厘三毛

右之通惣百姓中立合無高下致割付、極月十日以前急度皆済可仕者也

貞享元子年十一月十五日

伍藤佐太右衛門^印

四〇九

大嶋三郎右衛門^印

鹿塩村

惣百姓中

外

一米五斗壹升五合

山年貢

右之通当御成ヶ相究候条、庄屋百姓立合早速致割、極月廿日以前急度可皆済、若於滞は譴責可申付者也

元禄元辰年十一月十五日

南條金左衛門^印

一四五 鹿塩村年貢割付状

○町内鹿塩

鹿塩区所蔵

右村

庄屋

百姓中

(解説) 元禄元年(一六八八)の鹿塩村下組の年貢免状である。この年より鹿塩村は、幕領地となって笠松代官所の支配下となった。

一四六 上川辺村年貢割付状

○町内上川辺

上川辺区所蔵

辰歳賀茂郡鹿塩村御年貢割附之事

一 高百五拾石三斗

田畑辻

内三石貳斗七升

当辰山崩石入引

拾三石八斗八升七合

当辰水損引

残百三拾三石壹斗四升三合

此取米五拾壹石貳斗六升

有高ニ三ツ八分

五厘

(解説) 元禄六年(一六九三)の上川辺村の年貢免状である。上川辺村は幕領地に支配替えとなり、笠松代官所役人名で出された割付状である。

酉歳賀茂郡上川邊村御年貢割附之事

一高六百四拾五石八斗七升

田畑辻

九石壹斗九升三合

辰山崩石砂入り

内

七拾貳石八斗三升七合

当酉日損引

残五百六拾三石八斗四升

此取米三百四石四斗七升四合

有高五ッ四分

外

一米四斗九升四合

当酉改出見取

此畑九反八畝廿七步

一米七石六斗

山小物成

右之通当御成ヶ相究候条、庄屋百姓立合早速致割、極
月廿日以前ニ急度可皆済、若於滞は譴責可申付者也

元禄六年酉十一月五日

南條金左衛門印

右庄屋百姓中

一四七 鹿塩村年貢割付状

○町内鹿塩

鹿塩区所蔵

〔解説〕 享保二〇年（一七三五）の鹿塩村上組の年貢免
状である。鹿塩村は幕領地で、この免状は一〇か年間の年
貢を決めた定免である。

卯御物成可納割附之事

申より巳迄拾ヶ年定免
一高貳百貳拾三石八斗六升

内壹斗

壹斗四升壹合

壹石壹斗貳升

小以壹石三斗六升壹合

残貳百貳拾貳石四斗九升九合

此取米八拾九石七斗六升四合

外

一米貳石

一米四斗四升八合

一米壹斗三升四合

一金貳分永五拾九文七分

納合

米九拾貳石三斗四升六合
金貳分永五拾九文七分

加茂郡

鹿塩村

御蔵屋敷

前々堤敷永引

亥山崩石砂入永引

山年貢

六尺給

但高百石貳斗懸
御伝馬宿入用

但高百石六升懸
浅草御蔵前入

但高百石二永貳百
五拾文懸

外

米貳石七斗五升三合

口米

右は去ル申より已迄拾ヶ年定免、惣百姓依願当御成箇
相極之間、村中大小之百姓立会無高下致割付、来ル十
一月廿日限急度可致皆済者也

享保貳拾年卯十月

長谷川庄五郎^印

右村

庄屋

与頭

惣百姓

一四八 上川辺村年貢割付状

○町内上川辺

上川辺区所蔵

(解説) 元文二年(一七三七)の上川辺村の一〇か年間の

年貢定免である。上川辺村は幕領地で、この免状は災害
による田畑損害額の差し引き、新規開こんのものの算入な

ど、また一部支途明細の記載もある。

已御物成可納割付之事

申より已迄拾ヶ年定免

一高六百四拾五石八斗七升

六斗壹升

九斗三升八合

外四斗九升壹合

貳石九斗九合

内壹石貳斗

壹斗六升八合

壹斗七升九合

壹石八斗六升六合

外九升七合

小以七石八斗七升

残六百三拾八石

此取米三百貳拾三石五斗三升五合

内貳斗九升四合

外

一田五反九畝拾七步

内貳反七畝拾貳步

加茂郡

上川邊村

田方前々川欠永引

同戌川欠山崩永引

已起返

同戌石砂入引

畑方前々川欠永引

同戌石砂入引

卯山崩石入引

亥川欠永引

已起返

已起返取米入

見取

戌石入引

残三反式畝五歩

此取米六斗四升八合

反ニ式斗壹合四勺五才取

内米四升六合

当巳より増

一畑壹町九反三畝廿八歩

見取

内壹反五畝拾式歩

戌石入引

残壹町七反八畝拾六歩

反ニ壹斗壹升壹合五勺取

此取米壹石九斗九升壹合

内米壹斗八合

当巳より増

一米七石六斗

山小物成

一米壹石式斗九升式合

六尺給

一米三斗八升七合

御伝馬宿入用

一金壹両式分永百拾四文七分

浅草御蔵前入用

但高百石永式百五拾文懸

納合 米三百三拾五石四斗五升三合

金壹両式分永百拾四文七分

外

米拾石壹升三合

口米

右は去ル申より巳迄拾ヶ年定免、惣百姓依願当御成箇相極之間、村中大小之百姓立合無高下致割賦、来ル十一月廿日限急度可致皆済者也

元文貳年巳十月

長 庄五郎印

右村

庄 屋

組 頭

惣百姓

一四九 鹿塩村年貢割付状

○町内鹿塩

鹿塩区所蔵

(解説) 寛延二年(一七四九)の鹿塩村上組の年貢免状

である。鹿塩村は幕領地で、この当時高山代官所の支配下にあった。また年貢は收穫高に応じて収納する割付状である。

巳御年貢可納割附之事

検見取 一高式百式拾三石八斗六升

内

加茂郡

鹿塩村
善兵衛組

壹斗

御蔵敷引

壹斗四升壹合

前々堤敷引

四斗四升

申川欠引

小以六斗八升壹合

残貳百貳拾三石壹斗七升九合

此取米九拾五石貳斗六升六合

高四ツ式分五厘

六毛内、毛附高

四ツ式分六厘九

毛内

外

一 谷畑三反九畝七步

此取米壹斗九升六合

一 山畑六反八畝四步

此取米貳斗四合

一 米貳石

山年貢

一 米四斗四升八合

六尺給

一 米壹斗三升四合

御伝馬宿入用

一 金貳分永五拾九文七步

浅草御蔵前入用

一 米貳石八斗七升

口米

一 米六升

山小物成口米

納合

米百壹石壹斗七升八合

金貳分永五拾九文七分

右は当已御取箇検見之上書面之通相極条、村中大小百姓出作之者迄立会無高下令割賦、来ル十一月廿日限急度可皆済者也

寛延二年巳十月

幸田善太夫印

右村

名主

組頭

惣百姓

右延享二丑年より寛延二巳年迄五ヶ年之間、幸田善太夫様御支配

一五〇 下飯田村年貢免状

○町内下飯田

下飯田区所蔵

(解説) 宝曆六年(一七五六)の下飯田村の年貢免状で

ある。下飯田村は尾張藩領で、五か年間の年貢高を決めた割付状である。

宝暦六子年より辰年迄五ヶ年之内

極免定

一高六拾石五斗五升五合

内

高式斗三升壹合

高五斗八升七合

残高五拾九石七斗三升七合

取米拾五石九斗三升五合五勺

高式ツ六分五厘七毛余

残高式ツ六分六厘七毛余

口米壹石壹斗壹升五合四勺四才

一高五斗八升七合

取米式斗九升三合五勺

高五ツ取

口米式升五勺五才

極免概高式ツ六分八厘

米合拾七石三斗六升五合

四貢租

内

七斗式合

麦壹石四斗四合ニ納

右は其村内依願、当子年より辰年迄五ヶ年之内極免此相極候間、庄屋組頭小百姓中不殘其節々立会、以来申分無之様無高下其割付、毎歲十二月廿日以前急度可令皆納者也

宝暦六年子閏十一月

橋本治右衛門印

建部伊太夫印

竹村半右衛門印

青木宇右衛門印

味岡善十郎印

右庄屋組頭
小百姓中

一五一 上川辺村年貢割付状

○町内上川辺

上川辺区所蔵

(解説) 宝暦七年(一七五七)の上川辺村の年貢免状で

四一五

ある。上川辺村は幕領地で、この免状は田畑の災害による損害額を差し引き、また支途明細の記載もある五か年間の年貢定免である。

丑御年貢可納割附之事

美濃国加茂郡

上川邊村

一高六百四拾五石八斗七升

此取米三百三拾九石

高五ツ式分六厘三毛内、

九斗貳合

毛附五ツ三分三厘四毛内

外三斗七升六合

去子減

此訳

田高三百六拾三石五斗

内

四石五斗四合

前々川欠山崩石砂入引

三斗八合

午石砂入引

壹石貳斗

戌石砂入引

七斗四石

当丑川欠引

小以六石七斗壹升六合

残三百五拾六石七斗八升四合

此取米百九拾石

高五ツ式分三厘五毛余、

三斗七合

毛附五ツ三分三厘四毛内

外三斗七升六合

当損地米去子減

畑高貳百八拾貳石三斗七升

内

壹石六斗六升貳合

前々川欠山崩石砂入引

貳斗

午道代引

五升四合

戌石砂入引

小以壹石九斗壹升六合

残貳百八拾石四斗五升四合

此取米百四拾九石

高五ツ式分九厘八毛内、

五斗九升五合

毛附五ツ三分三厘四毛余

外

一田五反九畝拾七步

見取

内壹反七畝拾步

戌石入引

残四反貳畝七步

此取米壹石三斗四升壹合

内四斗五升四合

去子ニ増

一山田壹町八畝八步

見取

此取米壹石四斗七升三合

内四斗九升九合

去子ニ増

一畑壹町九反三畝廿八步

見取

内壹反五畝拾貳步

戌石入引

残壹町七反八畝拾六步

此取米貳石壹斗四升貳合

一 谷畑八反四步

見取

此取米四斗壹合

一 山畑壹反三畝三步

見取

此取米三升九合

一 米七石六斗

山小物成

一 米三斗八升七合

御伝馬宿入用

一 米壹石貳斗九升貳合

六尺給米

一 永壹貫六百拾四文七分

御蔵前入用

一 米拾石三斗五升九合

口米

一 米貳斗貳升八合

山小物成口米

一 林山反別拾町五反五畝三步

丑改林役

此役永壹貫五拾五文壹分

但 壹反ニ付平均
永拾文ツツ

一 同拾六町三反貳畝拾八步

丑改林役

此役永八百拾六文三分

但 壹反ニ付平均
永五文ツツ

一 永五拾六文壹分

右口永

納合 米三百六拾五石壹斗六升四合

永三貫五百四拾貳文貳分

四 貢 租

右は去ル亥より卯迄五ヶ年定免之内、当丑御成箇書面之通候条、村中大小百姓入作之者迄立会無高下令割賦、当十一月廿日限急度可皆済者也

宝曆七年丑十月

上 彦左衛門 印

右村

庄 屋

年 寄

惣百姓

一五二 下吉田村年貢免状

○川辺町所蔵
(上米田支所)

(解説) 宝曆七年(一七五七)の下吉田村の年貢免状である。下吉田村は尾張藩領で、代官役人名で出された令書であり、一部は麦上納を認めている。

宝曆七丑年免定

一 高三百四拾石七斗八升七合

加茂郡
下吉田村

内百拾貳石七斗八升七合

当検見引

残高貳百貳拾八石

高三ツ貳分五厘八毛

取米百拾壹石三升六合

残高四ツ八分七厘

内拾壹石五斗

麦貳拾三石ニテ納

一 反数壹町四反拾歩

同所見取

内壹反八歩

定引

残反数壹町三反貳分

内田貳反四畝貳歩

畑九反六畝拾五歩

松生九畝拾五歩

亥より卯迄五ヶ年
定納米壹石三斗五升

一 田貳畝廿七歩

同所

右同断
定納米七升五合

一 田壹畝廿貳歩

同所

子より寅迄三ヶ年
定納米四升

米合百拾貳石五斗壹合

右ハ当丑年其村御免相如斯相極遣之候間、庄屋組頭惣
百姓立会、已来申分無之様無高下令割付、来ル極月廿

日已前急度可令皆済者也

宝曆七丑十一月

河 猪左衛門印

右村

庄屋

組頭

惣百姓

一五三 下川辺村年貢取米帳

○町内下川辺

木下喜作氏所蔵

(解説) 宝曆一一年(一七六一)の下川辺村の年貢取米帳である。下川辺村は幕領地で、この免状は一〇か年間の年貢を定め、請書形式で村役人から役所あてに提出したものである。

(表紙)

未年より辰年迄拾ヶ年御取米帳

加茂郡

下川邊村

未年

一高五百壹石三斗

内四石八升九合

諸引

残高四百九拾七石貳斗壹升壹合

此取米百九拾九石七斗

申年

内四石八升九合

諸引

残高四百九拾七石貳斗壹升壹合

此取米百九拾九石七斗

酉年

内四石八升九合

諸引

残高四百九拾七石貳斗壹升壹合

此取米百九拾九石七斗

戌年

内四石八升九合

諸引

残高四百九拾七石貳斗壹升壹合

四貢租

此取米百九拾九石七斗

亥年

内四石八升九合

諸引

残高四百九拾七石貳斗壹升壹合

此取米貳百石八斗七升三合

内壹石壹斗七升三合

当亥定免切替ニ付増

子年

内四石八升九合

諸引

残高四百九拾七石貳斗壹升壹合

此取米貳百石八斗七升三合

丑年

内四石八升九合

諸引

残高四百九拾七石貳斗壹升壹合

此取米貳百石八斗七升三合

寅年

内四石八升九合

諸引

残高四百九拾七石貳斗壹升壹合

此取米貳百石八斗七升三合

卯年

内四石八升九合

諸引

四一九

残高四百九拾七石貳斗壹升壹合

此取米貳百石八斗七升三合

辰年

内四石五斗貳升九合

内四斗四升

諸引

十分一二不当分、当

辰より去卯砂入り引

残高四百九拾六石七斗七升壹合

此取米貳百壹石貳斗六升壹合

当辰より申迄五ヶ年

定免

右は未年より辰年迄拾ヶ年御取米、書面之通相違無御座候以上

宝曆拾一年巳八月

下川邊村庄屋

同村年寄

同村百姓代

六印

長次郎印

与次右衛門印

下川邊御役所

一五四 下川辺村年貢割付状

○町内下川辺

木下喜作氏所蔵

(解説) 明和三年(一七六六)の下川辺村の年貢免状で

ある。下川辺村は幕領地で、この免状は七か年の年貢を決めた定免であり、一部金納となっている。

戌御年貢可納割附之事

酉より卯迄七ヶ年定免
一高五百壹石三斗

美濃国加茂郡

下川邊村

此訳

田高貳百八拾七石壹斗壹升壹合

内三石五斗五合

四斗七升六合

六斗四升貳合

外壹石七斗五升五合

小以四石六斗貳升三合

残貳百八拾貳石四斗八升八合

此取米百拾四石貳斗八升貳合

前々池敷引

前々川欠引

去酉石砂入引

内

式百八拾石七斗三升三合

此取米百拾三石九斗式升六合

壹石七斗五升五合

此取米三斗五升六合

畑高式百拾四石壹斗八升九合

内壹斗八合

残式百拾四石八升壹合

此取米八拾六石四斗八升九合

取米合式百石七斗七升壹合

外

一 田拾七步

此取米九合

一 畑式反壹畝廿九步半

此取米壹斗九升八合

一 米七石五斗壹升九合

一 米三斗壹合

掛高三斗

外高五百壹石

一 米壹合

掛高除高右同断

一 永八分

一 永式百拾九文壹分

納合 米式百八石七斗九升九合

永式百拾九文九分

右は酉より卯迄七ヶ年定免、当戌御取箇書面之通相極

候条、村中大小百姓立会無高下割合之、来ル極月廿日

限急度可令皆済者也

明和三年戌十月

大 彦四郎印

右村

庄 屋

年 寄

惣百姓

見取

但 壹反ニ付
壹斗五升九合

見取

但 壹反ニ付
九升

山小物成

御伝馬宿入用

一五五 下川辺村年貢割付状

○町内下川辺

助郷除く

六尺給

木下喜作氏所蔵

(解説) 安永三年(一七七四)の下川辺村の年貢免状である。下川辺村は幕領地で、年貢は収穫高に応じて上納する方法で、一部金納となっている。

午御年貢可納割附之事

検見取

一高五百壹石三斗

美濃国加茂郡

下川邊村

此訳

同高貳百八拾七石壹斗壹升壹合

三石五斗五合

前々池成引

外

貳石六斗九升壹合三勺

前々引より当午

起返

貳石三斗壹升四合

去ル巳山崩引よ

り当午皆起返

残高貳百八拾三石六斗六合

此取米七拾七石

内

高貳百七拾六石八斗四升五合七勺

此取米七拾五石九斗七升三合

免貳勺七分四厘

四毛

高壹石七斗五升五合

去ル戌起返

此取米三斗五升六合

免貳勺貳厘八毛

高五石五合三勺

当午砂田起返

此取米六斗七升壹合

免貳ツ四分四毛

畑高貳百拾四石壹斗八升九合

内壹斗八合

前々郷蔵敷引

外

七斗五升七合

前々引より当午

皆起返

五斗九升貳合

去ル巳山崩引よ

り当午皆起返

残高貳百拾四石八升壹合

此取米八拾五石九斗八升

内

高貳百拾貳石貳斗三升貳合

此取米八拾五石七斗四升四合

免四ツ四厘

高五斗

去ル寅起返

此取米壹斗壹合

免貳ツ貳厘

高壹石三斗四升九合

当午起返

此取米壹斗三升五合

免壹ツ壹毛

取米合百六拾貳石九斗八升

外

一田拾七步

見取

此取米九合

一畑貳反壹畝廿九分半

見取

此取米壹斗九升八合

一米七石五斗壹升九合

山小物成

一永貳百拾九文壹分

林役永

懸高五百壹石三斗
一米三斗壹合

御伝馬宿入用

懸高三斗外五百壹石、太田宿助郷二付免許
一米壹合

六尺給

懸高除高右同断
一永八分

御蔵前入用

納合 米百七拾壹石八合
永貳百拾九文九分

右は検見取当年御取箇書面之通相極候条、村中大小百姓入作之者迄不殘立会無高下割合之、来ル極月十日限可令皆済者也

安永三年午十月

岩出伊右衛門印

右村

四貢租

庄屋

年寄

惣百姓

一五六 下飯田村年貢免状

○町内下飯田

下飯田区所蔵

〔解説〕 安永三年（一七七四）の下飯田村の年貢免状である。下飯田村は尾張藩領で、五か年間の年貢高を決めた割付状である。

定免

一高三百四拾貳石五斗五升五合

加茂郡 下飯田村

内

高壹石三斗

前々引

残高三百四拾壹石貳斗五升五合

内

高三石三斗貳升四合

山高別免出

四二三

取米九拾五石九斗六升七合

取米壹石六斗六升貳合

ノ米九拾七石六斗貳升九合

山高五ツ取

高概貳ツ八分五

厘取、残高貳ツ

九分四毛余

口米六石八斗三升五合

米合百四石四斗六升四合

内

三石九斗七升貳合

麦七石九斗四升

四合ニ納

右は其村依願、当年より戌年迄五ヶ年之内、定免如此相極候間、庄屋組頭小百姓中不残其節々立会、以来申分無之様ニ令割付、毎歳十二月廿日以前急度可令皆納者也

安永三年十一月

青木宇右衛門^印

右村

庄屋

組頭

小百姓中

一五七 下吉田村年貢免状

○町内下吉田

林真一氏所蔵

〔解説〕 天明三年（一七八三）の下吉田村の年貢免状である。下吉田村は尾張藩領であり、年貢上納の中に御救米とあるは、救恤などにより供出したものが、免除されたのであろう。

免定

加茂郡

下吉田村

一 高三百四拾石七斗八升七合

内五石三斗

取米百拾七石五斗七升貳合

山高

寅より午迄五ヶ年

極免高三ツ四分

五厘

丑より卯迄三ヶ年

御救米引

内六石五斗

麦貳拾三石ニて

納

一反数壹町四反拾歩

同所見取

内壹反八歩

定引

残反数壹町三反貳步
子より辰迄五ヶ年
定納米壹石三斗五升

内田貳反四畝貳步

畑九反六畝拾步

松生九畝拾五步

一 田貳畝廿七步

右同斷

定納米七升五合

一 田壹畝廿貳步

亥より卯迄五ヶ年

定納米四升五合

米合百拾九石四升貳合

内六石五斗

御救米引

右は其村定免定納米如斯候間、庄屋組惣百姓不殘立
会、以来申分無之様無高下令割賦、毎歳極月廿日以前
急度可令皆済者也

天明三年卯十一月

錦織地方御役所印

右村

庄屋

組頭

惣百姓

四 貢 租

一五八 下川辺村年貢割付状

○町内下川辺

木下喜作氏所蔵

(解説) 天明五年(一七八五)の下川辺村の年貢免状で

ある。下川辺村は幕領地で、年貢は收穫高に応じて上納する
方法であり、一部金納となっている。

巳御年貢可納割附之事

検見取

一高五百壹石三斗

美濃国加茂郡(川)

下河邊村

此訳

田高貳百八拾七石壹斗壹升壹合

内高三石五斗五合

高四石九斗

前々池成引

去ル亥子山崩押

掘石砂入引

当已起返

去々卯山崩引

当巳旱損皆無引

外高九斗

高壹石三斗

高三拾八石四斗壹升三合

小以高四拾七石三斗八合

四二五

残高貳百三拾九石八斗三合

此取米四拾八石七斗六升

内米貳石六斗三升六合

去辰増

内

高貳百三拾八石九斗三合

此取米四拾八石六斗七升

免貳ツ三厘七毛

余

内米貳石五斗四升六合

去辰増

高九斗

当已起返

此取米九升

去辰皆増免壹ツ

畑高貳百拾四石壹斗八升九合

内高壹斗八合

前々郷蔵敷引

高五石九斗三升

去ル子山崩石砂

入引

小以高六石三升八合

残高貳百八石壹斗五升壹合

此取米八拾四石九升五合

去辰増免四ツ四厘

取米合百三拾貳石八斗五升五合

内米貳石六斗三升六合

去辰増

外

一 田拾七步

見取

此取米九合

去辰同

一 畑貳反壹畝廿九分半

右同断

此取米壹斗九升八合

去辰同

一米七石五斗壹升九合

山小物成

一 永貳百拾九文壹分

林役永

掛高五石・壹石三斗
一米三斗壹合

御伝馬宿入用

掛高三斗外高五石・壹石、太田宿助郷二付免許
一米壹合

六尺給

掛高外高右同断

御蔵前入用

一 永八分

御蔵前入用

納合 米百四拾石八斗八升三合

永貳百拾九文九分

右は検見取当已御成箇書面之通相極候条、村中大小之

百姓入作之者迄、不殘立会無高下割合之、来ル極月十

日限急度可令皆済者也

天明五巳年十月

大 亀五郎印

右村

庄屋

年 寄
惣百姓

高四斗五升

去未山崩石砂入
引

高四石五斗六升三合

去ル申山崩石砂
入引

一五九 下川辺村年貢割付状

○町内下川辺

木下喜作氏所蔵

小以高拾貳石壹斗五升八合

残高貳百七拾四石九斗五升三合

此取米六拾三石九升六合

免貳ツ貳分九り

五毛内

去亥増

内米六石貳斗壹升六合

畑高貳百拾四石壹斗八升九合

内

高壹斗八合

前々郷蔵敷引

高五石九斗三升

去ル子山崩石砂

入引

高壹石貳斗貳升八合

去ル未山崩石砂

入引

高六斗五升六合

去ル申山崩石砂

入引

此訳

田高貳百八拾七石壹斗壹升壹合

内

高三石五斗五合

前々池成引

高三石六斗四升

去ル亥子卯山崩

押掘石砂入引

残高貳百六石貳斗六升七合

小以高七石九斗貳升貳合

四 貢 租

四二七

(解説) 寛政四年(一七九二)の下川辺村の年貢免状である。下川辺村は幕領地で、年貢は收穫高に応じて上納する方法であり、一部金納となっている。

子御年貢可納割附之事

美濃国加茂郡

下川邊村

検見取

一高五百壹石三斗

此取米八拾三石三斗三升四合

免四ツ式り六毛

服 常之丞印

取米合百四拾六石四斗三升

右村

内米六石式斗壹升六合

検見ニて去亥増

庄屋
年寄

外

一 田拾七步

見取

此取米九合

去亥増

一 畑貳反壹畝廿九步半

見取

此取米壹斗九升八合

去亥同

一 米七石五斗壹升九合

山小物成

一 永貳百拾九文壹分

林役永

一 米三斗壹合

御伝馬宿入用

懸高三斗外高五石壹石、太田宿助郷ニ付免許

六尺給

一 米壹合
捌高外高右同断

御蔵前入用

納合 米百五拾四石四斗五升八合

永貳百拾九文九分

右は検見取当子御年貢御取箇書面之通相極条、村中大

小之百姓入作之もの迄、不殘立会無高下割合之、来ル

極月十日限急度可皆済者也

寛政四子年十月

一六〇 上川辺村年貢割付状

○町内上川辺

上川辺区所蔵

（解説）

寛政五年（一七九三）の上川辺村の年貢免状である。上川辺村は幕領地で、この年貢は田畑および、山畑・谷畑に対する相当細分化された免状であり、一部金納となっている。

丑御年貢可納割附之事

検見取
一 高六百四拾五石八斗七升

美濃国加茂郡

上川邊村

此訳

田高三百六拾三石五斗

内高五石壹升七合

前々亥子山崩石

此取米百拾五石貳升壹合

去子同

高貳石三斗九升八合

砂入川欠押掘引
去ル未山崩石砂

高貳百拾九石七斗五升七合

免三ツ九分四り

高九石八斗五升九合

去ル申山崩川欠

此取米百八石六斗六升六合

去子同

高八石三升七合

石砂入引
当丑付荒皆無引

高拾六石四斗九升三合

去ル卯辰砂畑起
返、免貳ッ壹分

小以高貳拾五石三斗壹升壹合

此取米三石五斗四升九合

去子同
五厘貳毛内

残高三百三拾八石壹斗八升九合

高拾八石七斗壹升貳合

所々起返、免壹
ツ五分余

此取米百三石四斗六升七合

免三ツ五り九毛

内米四石貳斗六升四合

去子増

此取米貳石八斗七合

去子同

畑高貳百八拾貳石三斗七升

内高貳斗

右同断
一高七斗九升貳合

卯新田

高貳拾四石貳斗九升七合

道敷引
前々寅亥子川欠

田高三斗八升

山崩石砂入引

内高壹斗五升

当丑付荒皆無引

高貳石九斗壹升壹合

去々申川欠山崩

残高貳斗三升

免三ツ九分五り

小以高拾七石四斗八合

石砂入引

此取米九升壹合

去子減

残高貳百五拾四石九斗六升貳合

外米七升壹合

畑高四斗壹升貳合

免三ツ五分四厘

一畑壹町八反七畝廿八歩

見取

此取米壹斗四升六合

四毛内

此取米七斗貳升四合

去子同

取米合貳百拾八石七斗貳升五合

去子同

一谷畑七反九畝拾四歩

見取

内米四石貳斗六升四合

此取米壹斗八升貳合

一山畑壹反三畝三歩

去子同

外米四升壹合

檢見増

此取米四升貳合

見取

差引米四石貳斗貳升三合

去子増

一米七石六斗

山小物成

外

一田五反八畝拾七歩

檢見減

一永壹貫八百七拾壹匁四分

丑改林役

内壹反七畝拾歩

見取

一永四拾四文六分

寅改林役

三反壹畝廿五歩

前々戌石砂入引

一米三斗八升八合

御伝馬宿入用

小以四反九畝五歩

当丑村荒皆無引

一米壹石貳斗九升四合

六尺給

残反別九畝拾貳歩

御蔵前入用

此取米壹斗七升六合

一永壹貫六百拾六文六分

外米九升三合

納合

米貳百貳拾九石貳斗五升壹合

一山田壹町四畝拾三歩

永三貫五百三拾貳文六分

内八反壹畝拾九歩

去子減

右は檢見取当丑御年貢御取箇書面之通相極条、村中大

残貳反貳畝廿四歩

見取

小之百姓入作之もの迄、不殘立会無高下割合之、来ル

此取米壹斗貳升

当丑村荒皆無引

極月十日限急度可皆済者也

外米七斗壹升九合

寛政五丑年十月

去子減

飯 常之丞印

右村

庄屋
年寄
惣百姓

一六一 福島村年貢免状

○町内福島

福島区所蔵

〔解説〕 享和三年（一八〇三）の福島村の年貢免状である。福島村は尾張藩領で、五か年間の年貢高を決めた割付状である。

免定

一 高四百四拾六石五斗六升五合

加茂郡
福島村

内三石四斗三升壹合

山高

内五石六斗壹合

前々引

残高四百四拾石九斗六升四合

取米百五拾六石貳斗九升八合

申より子迄五年、極免高三ツ

四 貢 租

内三石八斗貳合

五分宛
麦七石六斗四合
にて納

右は其村定免如斯候之間、庄屋与頭惣百姓不殘立会、以来申分無之様無高下令割賦、毎歳極月廿日以前急度可令皆済者也

享和三年亥十一月

右村

庄屋
与頭
惣百姓

織 孫七 印

一六二 石神村年貢明細

○町内石神

石神区所蔵

〔解説〕 文化二年（一八〇五）の石神村の年貢明細である。石神村は幕領地で、年貢は江戸回米をはじめとして、

四三一

第二部 文書の部

膳米・餅米・貯蔵米など支途別の記載があり、飛驒川を舟路で積み出すとある。

乍恐書付を以奉申上候御事

定免
一高五百八拾五石九斗

内八拾八石六斗三升四合

田高三百九拾壹石三斗貳升

此取米八拾六石六斗七升五合

畑高百九拾四石五斗八升

去子年
此取米六拾壹石壹斗三升六合

御廻米百壹石六斗九升三合壹勺

外

御膳粃七石

御廻粃貳石五斗

太餅米壹石七升九合

子丑式ヶ年分
百廿三石九斗貳升

御囲粃六拾壹石九斗六升

御下穀九升五合

御貯穀
粃拾壹石壹斗六合
稗貳拾貳石貳斗壹升貳合

一 御廻米津出しは飛驒川え積下シ、舟路拾九里程御座

候

御廻米中札印鑑

四三二

米主 不詳

米見 善三郎印

升取 又左衛門印

年寄 長十郎印

庄屋 藤十郎印

米主 不詳

米見 源助印

升取 甚三郎印

年寄 源太郎印

庄屋 孫右衛門印

加茂郡石神村庄屋

孫右衛門印

同断
藤助印

右之通奉申上候以上

文化二年

久保専九郎様

一六三 川辺村・栃井村定免請負証文

○川辺町所蔵
(西村家文書)

(解説) 文化四年(一八〇七)の川辺・栃井両村の年貢証文である。五か年間の定免を明記したもので、大凶作以外は多少の凶作でも、あらかじめ定められた年貢の上納を証文にて確約したものである。

御定免請負証文之事

一川邊・栃井両村共当卯年より未年迄五ヶ年之間、御定免御願申上候所、前方御定免之御引方之通被為仰付、御請負申上候処相違無御座候、然上は右五ヶ年之間、縦令少々損亡御座候共、御訴詔申上間敷候、万一御定免年季之内ニても、天災ニて格別之損亡等相立、外々様御定免場所も御用捨被成被遣候節ハ、御見分之上立毛ニ応シ、御用捨被下置候旨被仰渡、難有奉承知候、為後日奉差上御請証文仍て如件

文化四年卯六月

栃井村百姓代 龜三郎印
同村組頭 三助印
同 断
川邊村百姓代 久右衛門印
利兵衛印
同村組頭 徳左衛門印

御役所

一六四 福島村年貢免状

○町内福島

福島区所蔵

同 断 長左衛門印
同 断 茂左衛門印
同 断 庄助印
同 断 吉左衛門印
栃井村庄屋 儀右衛門印
川邊村庄屋 甚兵衛印

(解説) 文化六年(一八〇九)の福島村の年貢免状である。福島村は尾張藩領で、代官役人名で出された令書であり、一部は麦上納を認めている。

巳年免定

一高四百四拾六石五斗六升五合

加茂郡 福島村

五石六斗壹合

前々引

内

八拾七石四斗六升四合

当検見無取

残高三百五拾三石五斗

取米百三拾五石三升七合

高三ッ式厘三

毛、残高三ッ八

分式厘

内三石八斗貳合

麦七石六斗四合

ニて納

右は当巳年其村御免相如此相極遣之候間、庄屋組頭百姓不殘立合、以来申分無之様無高下令割賦、来ル極月廿日以前急度可令皆済者也

文化六年巳十一月

平 弥三左衛門^印

右村

庄屋

組頭

惣百姓

一六五 下川辺村年貢割付状

○町内下川辺

木下喜作氏所蔵

(解説) 文政一三年(一八三〇)の下川辺村の年貢免状である。下川辺村は幕領地で、この免状は七か年の年貢を決めた定免であり、一部金納となっている。

寅可納割附之事

当寅より申迄七ヶ年定免
一高五百壹石三斗

美濃国加茂郡

下川邊村

此反別四拾八町三反貳畝貳歩

此訳

田高貳百八拾七石壹斗壹升壹合

此反別貳拾壹町五反六畝拾五歩

高三石五斗五合

前々池敷引

此反別貳反三畝拾壹歩

内

高四石五斗七升

前々川欠山崩石
砂入引

此反別三反式畝拾八步

小以高八石七升五合

此反別五反五畝廿九步

殘高式百七拾九石三升六合

此反別式拾壹町拾六步

此取米八拾壹石四合

内米五合

定免切替去丑増

内

高式百七拾五石壹斗三升壹合

本免

此反別式拾町七反四畝壹步

此取米八拾石六斗九升七合

免式ッ九分三厘

三毛内

内米五合

定免切替増

高三石九斗五合

丑起返取下

此反別式反六畝拾五步

此取米三斗七合

免七分八厘六毛

余

畑高式百拾四石壹斗八升九合

此反別式拾六町七反五畝拾七步

高壹斗八合

前々御蔵敷引

此反別壹畝拾歩五厘

内

高三石七斗三升八合

去ル午川欠山崩
押掘石砂入引

此反別四反三畝拾式歩

小以三石八斗四升六合

此反別四反四畝廿式歩五厘

殘高式百拾石三斗四升三合

此反別式拾六町三反廿四歩五厘

此取米八拾四石六斗八升九合

去丑同

内

高式百九石四斗四升七合

本免

此反別式拾六町式反三畝拾歩半

免四ッ四厘余

此取米八拾四石六斗壹升九合

高八斗九升六合

午砂畑起返取下

此反別七畝拾四歩

此取米七升

免七分八厘七毛

余

取米合百六拾五石六斗九升三合

内米五合

去丑増

外

一 田反別拾七歩

此取米壹升

一 畑反別式反壹畝卅九歩半

此取米貳斗貳升

一 米七石五斗壹升九合

一 永貳百拾九文壹分

一 米三斗壹合

掛高三斗

外高五百壹石

一 米壹合

掛高

外高右同断

一 永八歩

納合 米百七拾三石七斗四升四合

永貳百拾九文九分

右は定免当寅御取箇書面之通相極条、村中大小之百姓入作之もの迄不殘立会無甲乙割合之、来ル極月十日限急度可令皆済もの也

見取

去丑同

見取

去丑同

山小物成

林役永

御伝馬宿入用

太田宿助郷高免

除

六尺給米

御蔵前入用

文政十三寅年十月

大井帯刀印

右村

庄屋

年寄

惣百姓

一六六 下川辺村年貢割付状

○町内下川辺

木下喜作氏所蔵

（解説）

嘉永元年（一八四八）の下川辺村の年貢免状である。下川辺村は幕領地で、この免状は七か年の年貢を決めた定免であり、一部金納となっている。

申御年貢可納割附之事

辰より戌迄七ヶ年定免
一 高五百壹石三斗

濃州加茂郡
下川邊村

此反別四拾八町三反式畝式歩

此訳

田高貳百八拾七石壹斗壹升壹合
此反別貳拾壹町五反六畝拾五步

掘石砂入引

内

高三石五斗五合

前々池敷引

此反別貳反三畝拾壹步

殘高貳百八拾三石六斗六合

此反別貳拾壹町三反三畝四步

此取米八拾三石五升六合

内訳

高貳百八拾石九斗貳升五合

本免

此反別貳拾壹町壹反三畝四步

此取米八拾貳石三斗八升六合

高貳石六斗八升壹合

西芝地成起返

此反別貳反步

此取米六斗七升

畑高貳百拾四石壹斗八升九合

此反別貳拾六町七反五畝拾七步

高壹升八合

前々郷蔵敷引

内此反別壹畝拾步五厘

高五斗八升八合

前々川欠山崩押

此反別九畝廿四步

小以高六斗九升六合

此反別壹反壹畝四步五厘

殘高貳百拾三石四斗九升三合

此反別貳拾六町六反四畝拾貳步五厘

此取米八拾五石九斗八升貳合

内訳

高貳百拾貳石五斗九升七合

本免

此反別貳拾六町五反六畝廿八步五厘

此取米八拾五石八斗九升貳合

高八斗九升六合

午砂畑起返

此反別七畝拾四步

此取米九升

取米合百六拾九石三升八合

去未同

外

一 田反別拾七步

見取

此取米壹升三合

去未同

一 畑反別貳反壹畝廿九步五厘

見取

此取米貳斗貳升

一米七石五斗壹升九合

山小物成

一永貳百拾九文壹分

林役永

一米三斗壹合

御伝馬宿入用

掛高三斗

助郷高免除

外高五百壹石

六尺給米

一米壹合

御藏前入用

掛高

外高右同断

一永八分

納合 米百七拾七石九升貳合

永貳百拾九文九分

右は定免当申御取箇書面之通候条、村中大小之百姓入作之もの迄不殘立会無甲乙割合之、来極月十日限急度可令皆済者也

嘉永元申年十月

小 朝右衛門印

右村

庄屋

年寄

惣百姓

一六七 上川辺村一部地域再定免願

○町内上川辺

上川辺区所蔵

(解説) 安政六年(一八五九)の上川辺村納古山地域の再定免願である。この地域は過去五か年定免扱いであったが、今後一〇年間同じ扱いとするよう願つたもの。対象地域が山間部で被害も多いが、収穫量の三分の一以上の損毛のさい以外は、毎年一定額を上納するとある。

乍恐以書付を御願奉申上候

寅年より午年迄五ヶ年歳季明
当未より辰迄拾ヶ年御定免願

一田反別五反八畝拾七歩

当分御領所
美濃国加茂郡上川邊村

内壹反七畝拾歩

去ル戌石砂入引

残四反壹畝七歩

此取米八斗七升壹合

外ニ米壹升五合

当未御定取切替

増

内壹升三合

御臨時ニ付増

右同断
一山田反別耆町四畝拾三步

此取米九斗三升五合

外ニ米耆升五合

当未御定取切替

増

内耆升四合

御吟味ニ付増

右御見取田方之儀、去ル寅年より午年迄五ヶ年之間、御定取被仰付難有御上納仕来り候処、当未年季明ニ付引続御定取奉御願申上度奉存候、尤右御見取場之儀ハ、組合六ヶ村入会納古山統、山間所々谷々ニ御座候得は、立毛刈取向合、以前より猪・鹿・鳥類喰荒し多分損毛相立、猶又所々飛地ニ御座候得は、御見分等ニ相成候ては人馬御繼立方其外等も乍恐相掛、旁々甚々難渋迷惑仕候ニ付、無拗右之趣相欲御定取奉御願上候ニ付、御聞濟之处去年迄五ヶ年之間、新規御定取被仰付難有仕合ニ奉存候、且又引続当未年より辰年迄拾ヶ年之間、御定取被仰付被下置度段、前書増米ヲ以奉願上候、勿論右年限中如何様之年柄ニても、御取箇三分耆以上之損毛ならてハ、御検見入等御願奉申上間敷候間、何卒格別之御慈悲御勘弁を以、右年限御定取被仰付被下

四 貢 租

置候様、村役人一同連印を以只管奉願上候以上

安政六年未二月

加茂郡上川邊村

百姓代

同 龜

同 藤

同 兵左衛門

年 寄

同 多

庄 倉

同 清

下川邊
御役所

兵三郎

藏

藏

兵衛

助

松

一六八 福島村年貢免状

○町内福島

福島区所蔵

(解説) 慶応元年(一八六五)の福島村の年貢免状である。福島村は尾張藩領で、代官役人名で出された令書であ

り、一部は麦上納を認めている。

免定

一 高四百四拾六石五斗六升五合

加茂郡
福嶋村

内五石六斗壹合

定引

残高四百四拾石九斗六升四合

取米百五拾六石貳斗九升八合

当丑より戌迄拾

年極免高三ッ五

分取

内三石八斗貳合

麦七石六斗四合

にて納

右ハ其村定免如此候間、庄屋組頭百姓不殘立会、以来
申分無之様無高下令割賦、毎年極月廿日以前急度可令
皆済者也

慶応元年丑十一月

村 八郎右衛門 印

右村

庄屋

組頭

惣百姓

Ⅲ 減免

一六九 栃井村田畑年貢減免願

○町内西栃井

橋本新一氏所蔵

(解説) 享保一七年(一七三二)の年貢減免願である。

当村は田畑の土質が悪く、従来は一年限りの減免であったが、長期間の減少を再度願ったもので、加えて、現在でも年貢未納分が増加し、それに伝馬役などの諸役もあって、すべて借入金で賄っている実情を訴えたものである。

美濃国御知行所栃井村御百姓

乍恐書付を以奉願上候御事

一 栃井村之儀田畑共ニ土地悪敷、白地畑多ク御座候所
ニ、前々より隣村ニ無御座、御高免田畑白地共ニ、
御同免ニ被召上来候故、成立百姓は無御座候て、段々

と困窮仕御田地相続不罷成候、御年貢不足并年毎ニ御未進相増シ、最早一兩年之内ニ大小之百姓不殘禿申様ニ罷成、迷惑至極ニ奉存候、此上は老年限之御用捨ニては困窮重ク、永々取続キ難成候、乍恐御勘弁之上末々迄過分之御用捨被為仰付、御慈悲を以百姓相続仕候様御頼上候御事

一 於川邊当子之御免定頂戴仕奉拜見候所ニ、田畑共ニ嚴ク被仰付迷惑至極奉存、願書を以御役人様方へ、段々御嗟キ申上候得は、田方へ高六石、畑式分御用捨被置下難有奉存候得共、願之筋ニ中々相届キ不申、御年貢大分不足御未進も相増シ、猶又困窮強罷成、禿百姓も多ク成可申と迷惑奉存候、尤年々御願之度毎ニ少々宛、御用捨も被仰付候得共、不行届斗ニて嚴ク被仰付候ニより、年々御願不申ては不成様ニ罷成、迷惑至極奉存候故、無是悲^(非)御当地様へ罷下り申候、尤川邊ニて差上申候願書ニ委細書上申候間、御上覧之上御用捨末々迄被仰付、御慈悲ニ御代々之御百姓ニ候へハ、相続仕候様奉願上候御事

一 両村之儀、中番村は七ッ成、栃井村ハ六ッ成、古来より御定免之由ニて被仰付候、然共土地悪敷田畑共

ニ、作毛不出来不相応之高免故、田方ハ御畝引、畑方へは定米引、古来より年々被置下来候、其上天和之時分迄は両村百姓方手間^(少)数ク、廿疋内外つなぎ申、山草芝等田畑之肥シ沢山ニ入、作毛も宜出来仕、旁々以御慈悲之御用捨ニて御年貢御上納仕候、近代は御拝借も不仕馬数も減シ、村中ニ四五疋ならてハ無御座候仕合故、自然と作毛不出来仕候所、御用捨少ク年々御年貢不足仕候て、段々御未進ニ成困窮仕、成立候百姓も無御座候所ニ、十五年此旁別て悪年斗打続、尤御用捨被置下候ても、其年之御年貢不足之分内輪斗被仰付、年々御未進大分相増シ、百姓立申儀不罷成候様成、迷惑至極奉存候、悪年之年御用捨大分被下候様被思召候得共、不作無立チも不足ニ、又宜年は御用捨も少分理運と御取上候へて、悪敷年も不足宜年も不足、何れニて百姓相続可仕様も無御座候、尤去年は悪年御用捨も御座候得共、当年は少々宜敷相見へ候得は、御物成当村ニて米三百石余、急ニ御取上ケ被仰付候、宜敷年ニ過分之御用捨ニて相立可申所ニ、壹ヶ年御取上弥以困窮重ク相禿申斗ニ成、迷惑至極奉存候御事

一 御年貢不足米御未進之儀、古来ハ殿様御未進ニテ御
払米御値段ヲ以、元金ニテ十月迄ニ被召上候、若禿
百姓御座候得ハ、御公儀より御下役人被遣、家財田
地等迄御付立御払米代金被召上、大分不足仕候得共、
其分ニテ御皆済被遊被下候て、村弁損金も懸り不申
候ニ、近年之被仰付形ハ前ニ申上候通、御借り入故
ニ利足出シ、其上不足は村弁ニ仕、迷惑至極ニ奉存
候付、古来之通ニ被為仰付被下候様奉願上候御事

一 近代新開発高五拾石四斗六升七合六勺ニ、本高三百
五拾八石六斗八升ニ加へ、惣高四百九石四升七合六
勺、御前帳え御付出被遊候ニ付、御伝馬並諸事御公
用右之高ニ相当り迷惑仕候、右申上候通馬数少ク候
故、御伝馬高大当り之節ハ、外村ニテ賃銀出し雇相
勤、旁々以困窮仕候御事

右之通惣百姓困窮仕候段御勘弁被遊、御慈悲を以百姓
相続仕候様ニ、被為仰付被下置候は難有可奉存候御事

享保十七年子十一月

栃井村
小百姓中判

助川弥市左衛門様

後藤文右衛門様

小嶋 近右衛門様

一七〇 栃井村年貢減免願

○町内西栃井

橋本新一氏所蔵

(解説) 宝暦九年(一七五九)の年貢減免願である。新
開地の年貢負担が過重で困窮していること。太田宿助郷に
より十分耕作出来ないこと。日照りから不作となり蓄えも
なくなつたこと。以上の理由から、未納となつてゐる年貢
の免除を願ひ出たものである。

乍恐以書付奉申上候事

一本高三百五拾八石五斗

栃井村

今高四百拾石余

此義ハ年々野方少々ツツ起候所ニ、御検分之上式分
三分之所迄起高御付被遊、少々ツツ御年貢上納仕来
リ申候、然処ニ五拾年以前本高ニ御組入被遊、御見
取同前之場所、本田同前之御年貢上納仕候故、起高

多ク控申候、百姓年々潰百姓罷成、其者之田地村々請取、高壺石之所ハ下作米式斗より三斗迄掟ニ仕、残之御年貢村弁ニ仕候、近年ハ段々百姓困窮仕、端々之田地ハ作人無御座、荒地ニ罷成迷惑仕候事

一 右田地荒申斗ニても無御座、惣百姓困窮仕候義ハ、近年太田宿助郷ニ罷成、第一三月より六月迄、人馬太田宿助郷高ニ罷出、耕作手入おくれ、肥シ等も不罷成連々と取実無御座候、然処ニ耕作之間ニ納古山と申入会山ニて、薪木並田畑之養ニ仕候草木も、刈取申間も無御座、同田畑共やせ申候間、夫食等惣百姓共無御座候処ニ、去寅年不及聞大日照ニて、田畑共ニ皆無同然ニ罷成、惣百姓只今より夫食無御座、農具等迄質ニ遣し、耕作可仕手立無御座、十方ニ暮迷惑仕候御事

一 去寅年立毛之義、早損ニて皆無等も御立被成、御引方被下置候へ共、壺と申立毛以前之三之立毛ほどならでハ、取入米無御座、尤畑方へも御用捨被下置候得共、右之仕合之百姓御年貢上納難成迷惑仕候、残右之義ハ御慈悲御勘弁奉願上候御事

右之通被為聞召立百姓へハ夫食御拝借被仰付、当村よ

四 貢 租

り飢申百姓多ク御座候間、御検分被遊御慈悲御勘弁之上、永ク御百姓相続仕候様奉願上候以上

宝曆九年卯正月

栃井村
百姓中

御役所

一七一 栃井村年貢減免願

○町内西栃井

田原耕作氏所蔵

(解説) 天保一四年(一八四三)の年貢減免願である。畑地が悪く年貢が一部減免となつたが、減少分が田地に付加となり、これが高負担であつた。そのため減免を願ひ出したものである。

乍恐書付を以奉御願申上候

一 御支配所加茂郡栃井村之儀、先年大嶋様御上地ニて御高百九拾四石余、此三分一田高六拾七石余、此三分二畑高百式拾六石余、右之畑地悪地砂畑ニて取実

少く、御上納向相勤り不申ニ付、悪畑引と名付悪畑
之分、高一割引之田高ニ余荷候ニ付、田高之免相進ミ、
猶又高五拾石余、村高ニ相成候ニ付、右之内高式拾
六石余村方え割付高ニ仕、残高式拾三石余村方ニ全
クころがり高ニ相成、難渋至極ニ奉存候、右ニ付御
趣意恐多は御座候得共、此度被仰渡候畑方免上之義、
何卒御容免被成下置候ハハ、難有一同御百姓相続可
仕と乍恐奉存候、右之段三役人連印を以奉願上候以
上

天保十四年卯閏九月

右村百姓代
年寄 六右衛門 印
庄 藤 助 印
嘉屋 吉 印

奥野礼右衛門様
渡邊 幸之助様

IV 皆済目録

一七二 石神村年貢勘定目録

○町内石神

石神区所蔵

(解説) 享保二年(一七一七)の石神村年貢勘定目録で
ある。石神村は幕領地で、当時、美濃代官所の支配を受け、
この文書は美濃代官あてに提出し、代官から皆済されたと
いう証文である。

濃州加茂郡石神村申御年貢御勘定目録

一 高五百八拾五石九斗

此取米式百拾六石四斗三合

内式石四斗五升八合 御加免

外

米式石五斗

山小物成

此金拾兩三分

但申三分一值段式斗五

銀七匁壹分七厘

升高金壹兩貳斗三升か

金壹兩壹分

御蔵前入用

銀拾貳匁八分九厘

米壹石四升七合

御六尺給米

米三斗四升六合

道中御入用米

米六石五斗六升七合

御口米

此金拾三兩三分銀六匁四分八厘

六石四斗四升三合

本途並御加免三分一

此金拾三兩壹分

但申三分一值段金壹兩

銀拾匁三分八厘

四斗八升かへ

内四升九合

御加免三分貳

此銀六匁五分三厘

但申三分一值段三升高

金壹匁四斗五升かへ

七升五合

小物成

此金壹分

但申三分一值段式斗五

銀四匁五分七厘

升高金壹兩貳斗三升

かへ

米貳百拾七石七斗九升六合

小以

金貳拾六兩銀拾壹匁五分四厘

右納次第

米七拾壹石三斗壹升五合

三分一金納

此金百拾八兩貳分

但申三分一值段金壹兩

銀四匁三分七厘

四斗八升

米貳石四斗五升八合

御加免

此金五兩壹分銀五匁九分壹厘

三分壹

八斗壹升九合

但申三分一值段金壹兩

此金壹兩貳分

四斗八升かへ

銀貳匁三分八厘

内

壹石六斗三升九合

三分二

此金三兩貳分

但申三分一值段三升高

銀八匁五分三厘

金壹兩四斗五升かへ

米六斗

餅米納代米

此金貳兩

但金壹兩貳斗七升か

銀拾三匁三分三厘

へ

米四石

粃納代米

此粃拾六俵

但五斗入江戸廻

米百三拾九石四斗貳升三合

米納江戸廻

此俵三百四拾八俵

但四斗入

式斗式升三合

金式拾六兩

金納

銀拾壹匁五分四厘

米納合百三拾九石四斗式升三合

金納合百八拾貳兩壹分銀五匁壹分五厘

外銀八匁四分貳厘

此金百六拾八兩壹分銀拾三匁六分八厘より出ル

右之通去申御年貢御勘定仕上ケ申候、若相違之儀御座候ハハ、重て仕直シ差上ケ可申候已上

享保貳年酉八月十四日

加茂郡石神村
庄屋 権右衛門

恩田郡左衛門殿

前書之通申御年貢御勘定相済候ニ付致奥判遣之候、若相違之儀候歟、又ハ百姓中申分於有之ハ、此御勘定目錄可為反故候已上

酉八月十四日

平岡三郎右衛門手代
恩田郡左衛門 印

右村庄屋中

一七三 鹿塩村年貢勘定目錄

○町内鹿塩

鹿塩区所蔵

(解説) 享保二年(一七一七)の鹿塩村下組の年貢勘定目錄である。鹿塩村は幕領地で、当時、美濃代官所の支配を受け、この文書は美濃代官あてに提出し、代官から皆済されたという証文である。

濃州加茂郡鹿塩村申御年貢御勘定目錄

一 高百五拾石三斗

此取米四拾六石六斗五升八合

内六斗三升

外

御加免

一米五斗壹升五合

此金貳兩

銀拾四匁三分五厘

山小物成

但申三分一御値段式斗

五升高金壹兩貳式斗三

升かへ

一金壹分銀七匁五分五厘

御蔵前入用

一米貳斗六升八合

御六尺給米

一米八升九合

道中御入用米

一米壹石四斗壹升五合

御口米

此金貳兩三分銀拾四匁壹厘

内壹石三斗八升七合

本途並加免三分一

此金貳兩三分

但申三分一御値段金壹

銀八匁三分七厘

兩ニ四斗八升かへ

壹斗三合

御加免三分二

此銀壹匁七分三厘

但申三分一御値段三升

高金壹兩ニ四斗五升か

へ

壹升五合

小物成

此銀三匁九分壹厘

但申三分一御値段貳升

壹兩ニ貳斗三升かへ

米四拾七石壹升五合

小以
金五兩貳分銀五匁九分壹厘

右納次第

米拾五石三斗四升三合

三分一金納

此金三拾壹兩三分

但三分一御値段金壹兩

銀拾貳匁八分七厘

ニ四斗八升かへ

米六斗三升

御加免金納

此金壹兩貳分銀七匁貳分五厘

内貳斗壹升

三分一

此金壹分

但申三分一御値段金壹

銀拾壹匁貳分五厘

兩ニ四斗八升かへ

四斗貳升

三分二

此金三分銀拾壹匁

但申三分一御値段三升

高金壹兩ニ四斗五升か

へ

米壹斗五升四合

御餅米納代米

此金貳分

但金壹兩ニ貳斗七升か

銀四匁貳分貳厘

へ

米壹石

此粃四俵

但五斗入江戸廻

米貳拾九石八斗八升八合

米納江戸廻

此俵七拾四俵貳斗

但四斗入

八升八合

金五兩貳分銀五匁九分壹厘

金納

米納合貳拾九石八斗八升八合

金納合三拾九兩貳分銀貳分五厘

外銀壹匁八分三厘

此金三拾六兩貳分銀壹匁貳分四厘より出ル

右之通申御年貢御勘定仕上ケ申候、若相違之儀御座候ハハ、重て仕直差上可申候以上

享保二年酉八月十四日

加茂郡鹿塩村庄屋

忠兵衛印

年寄

源右衛門印

恩田郡左衛門殿

前書之通申御年貢御勘定相済候ニ付、致奥判遣之候、若相違之儀候歟、又ハ百姓中申分於有之は、此勘定目録可為反故候以上

享保二年酉八月十四日

恩田郡左衛門印

鹿塩村

庄屋中

一七四 石神村年貢皆済目録

○町内石神

石神区所蔵

(解説) 享保八年(一七二三)の石神村年貢皆済目録である。石神村は幕領地で、当時、美濃代官所の支配を受け、この文書は代官から皆済されたという証文である。

覚

高五百八拾五石九斗

濃州加茂郡

石神村

一米貳百拾壹石四斗七升貳合

本途

内七拾石四斗九升壹合

三分一金納

此金七拾貳両

但金壹両九斗七升六合

永貳百貳拾四文

代

三分九厘

百四拾石九斗八升壹合

三分二米納

一米三斗五升貳合

伝馬宿入用

一米壹石壹斗七升貳合

六尺給

一米八石三斗壹升貳合

丑欠米

一米貳石九斗九升三合

丑欠粃代米

此粃五石九斗八升六合

一米壹石

子御貯粃代米

此粃貳石

一米貳石五斗

山小物成

此金三両壹分

但金壹両ニ七斗式升六

米三石

寅御貯粃村預ケ

永百九拾三文五分式厘

合代三分一值段式斗五

此粃六石

升高

此俵拾式俵

但五斗入

一金壹両壹分

御蔵前入用

米四石式斗七升九合

口米二方

永式百拾四文七分五厘

一永六拾七文三厘

上金歩

一金式分永八拾五文九歩

御金下飛脚水夫給

右は去寅御年貢米金度々相納候、小手形を以致皆済勘定相遣無之ニ付、小手形共取上ケ書替目録相渡候、此上紛敷手形所持有之候共、可為反故候仍如件

一米六石四斗壹升九合

口米

享保八年卯五月

内式石壹斗四升

三分一金納

岩室伊右衛門印

此金式両

右村

永百九拾式文

但金壹両ニ九斗七升六

六分三厘

合代

名主
百姓

四石式斗七升九合

三分二米納

納合 米百五拾九石八升九合

金七拾九両三分永式百式拾八文式分式厘

一七五 鹿塩村年貢皆済目録

右納次第

○町内鹿塩

米三拾式石

寅冬廻シ

鹿塩区所蔵

米四石七斗五升

卯春御粃廻シ

此粃九石五斗

米百拾五石六升

同春廻シ

(解説) 寛延四年(一七五二)の鹿塩村上組の年貢皆済目録である。鹿塩村は幕領地で、当時、飛驒代官所の支配

第二部 文書の部

を受け、この文書は代官から皆済されたという証文である。

午御年貢皆済目録

濃州加茂郡

鹿塩村

善兵衛組

高式百式拾三石八斗六升

一米九拾五石八斗

一米四斗四升八合

一米壹斗三升四合

一米貳石

一粃壹石五斗

此米七斗五升

一粃壹石五斗

此米七斗五升

一米貳石八斗七升四合

一米六斗

一稗拾石五斗九升

一金貳分永五拾九文七分

米百貳石八斗壹升六合

合稗拾石五斗九升

金貳分永五拾九文七分

右納次第

粃壹石五斗

此米七斗五升

粃壹石五斗

此米七斗五升

稗拾石五斗九升

粃八石五斗

此米四石貳斗五升

米九拾石九升七合貳勺

内

米七斗五升

米壹斗四升貳合八勺

米壹石八斗九升貳合

金三兩永拾貳文七分

此米貳石

永九拾文四分

此米六升

金三兩壹分

永百四拾壹文三分

此米貳石八斗七升四合

金貳分永五拾九文七分

四五〇

巳御貯粃郷蔵詰

午御貯粃郷蔵詰

置稗郷蔵詰

御膳粃江戸廻

江戸御廻米

辰御貯粃代米

粃川下運賃

御廻米川下運賃

山小物成金納

但金壹兩二付六斗六升
三合八勺六才

右口米金納

但同値段

本途口米金納

但金壹兩二付八斗四升
七合四勺七才

金納

粃拾壹石五斗

米九拾貳石壹斗三升貳合

納合稗拾石五斗九升

金七兩永五拾四文壹分

外

永五文九分

上納金包歩

右は去年御年貢小物成高懸り等之米金、書面之通令皆
濟ニ付書替目録相渡之候、重て小手形出候共可為反古
者也

寛延四年未五月

柴村藤右衛門^印

右村

庄屋

年寄

惣百姓

一七六 下川辺村年貢皆濟目録

○町内下川辺

木下喜作氏所藏

四 貢 租

〔解説〕 宝曆一四年（一七六四）の下川辺村年貢皆濟目

録である。下川辺村は幕領地で、当時、飛驒代官所の支配
を受け、この文書は代官から皆濟されたという証文である。

未御年貢皆濟目録

村高五百壹石三斗
一米貳百壹石五斗壹升三合

美濃国加茂郡

下川邊村

内貳斗七合

見取米

外

一米六石四升五合

口米

此永七貫三百

但金壹兩ニ付八斗貳升

三拾壹文貳分

四合五勺六才

一米七石五斗壹升九合

山小物成

此永拾壹貫七百

但金壹兩ニ付六斗三升

九拾八文八分

七合貳勺七才

一米貳斗貳升六合

右口米

此永三百五拾四文六分

但右同値段

一永貳百拾九文壹分

林役

一永六文六分

右口永

一米三斗壹合

御伝馬宿入用

此永三百三拾九文貳分

但金壹兩ニ付、八斗八升
但七合貳勺七才

四五 一

一米壹合

六尺給

此永壹文壹分

但右同値段

一永八分

御蔵前入用

一米五拾七石

已御囲糶摺立米

此糶百拾四石

一米七石八斗八升

去午置米殘
置居米

一米七斗五升

去ル辰御貯糶
新米引替

此糶壹石五斗

江戸

一米貳斗五升

去ル巳御貯糶
右同断

此糶五升

納合 米貳百六拾七石三斗九升三合

永貳拾貳五拾壹文四分

此納払

御膳糶拾三石貳斗
米拾九石五斗六升

御膳糶代米渡

六石六斗

定例代米之分

内

拾貳石九斗六升

御膳糶□拾石八斗□□

米貳斗貳升壹合八勺

糶壹石三米壹石貳斗宛
右五里外運賃

米七斗五升

未年
御貯糶

此糶壹石五斗

米八石

午年御囲糶
番人扶持

七石八斗八升

置居米渡

内

壹斗貳升

新米渡

米貳拾九石六斗

右同断

米拾壹石貳斗五升

論所手代御扶持方
置米

米五拾五石八斗貳升

已摺平
御廻米

七合六勺

内

拾五石八斗貳升

未新米引替江戸廻

七合六勺

米壹石壹斗七升貳合四勺

右五里外運賃

米百九石七斗七合三勺

未新米
御廻米

米貳石三斗三合九勺

右五里外運賃

米貳拾九石

願石代

此代金貳拾八両三分

永四拾文六分九厘

但金壹両二付壹石七合
貳勺七才

金貳拾兩永五拾壹文四分 上納

米貳百三拾八石三斗九升三合 払合

金四拾八兩三分永九拾貳文九厘

外永四拾文七分 包歩銀

外 稗貳拾貳石九斗五升 御囲稗郷藏詰

外 粃百三拾七石 午御囲粃郷藏詰

右は去未御年貢小物成高掛物等之米金、書面之通令皆
濟ニ付一紙目錄相渡之候、重て小手形差出候共可為反
故者也

宝曆十四年申四月

布 弥市郎^印

右村

庄屋

年寄

惣百姓

一七七 上川辺村年貢勘定目錄

○町内上川辺

上川辺区所蔵

〔解説〕 明和四年（一七六七）の上川辺村年貢勘定目錄

である。上川辺村は幕領地で、当時、美濃代官所の支配を
受けていたが、この文書は美濃代官あてに提出し、折り返
し代官から皆済されたという証文である。

戊御物成米金御勘定仕上目錄

高六百四拾六石六斗六升貳合

濃州加茂郡

一米貳百五拾七石五斗貳升五合

上川邊村

内 壹石壹斗四升六合

見取米入

六拾石八斗七升壹合四勺

水腐米石代

内 此代永六拾貳貫

但金壹兩ニ付九斗八升

内

百六文七分

壹勺壹才

百九拾六石六斗

米納

五升三合六勺

外

一 永壹貫九百拾六文

林役

一米壹石貳斗九升四合

六尺給

此払

此永壹貫五百九拾

但金壹兩ニ付八斗壹升

米六石

御膳粳

七文三分

壹勺壹才

此粳拾貳石

一米三斗八升八合

御伝馬宿入用

米五斗

太餅粳

此永四百七拾八文九分

但金壹兩ニ付右同断

此粳壹石

一永壹貫六百拾六文七分

御藏前入用

米拾貳石

春役御普請扶持

一米七石七斗貳升六合

口米

米三石

堤方御給扶持

此永拾貫百

但金壹兩ニ付七斗五升

米貳拾石四斗

御膳割増

九拾九文貳分

七合五勺壹才

米壹斗五升

三割増

一米七石六斗

山小物成

米貳斗壹升八合四勺

粳五里外

此永拾三貫五百

但金壹兩ニ付五斗六升

米三石壹斗九升六合

五里外

六拾八文七分

壹勺壹才

米百五拾貳石壹斗八升

御廻米

一米貳斗貳升八合

小物成口米

九合貳勺

此永四百七文壹分

但右同値段

右は去戌御年貢米金ニテ懸物、並小物成口米永共上納

一永五拾七文五分

口永

皆済仕候ニ付、御勘定仕上申候処、書面之通相違無御

一米壹石

御貯粳

座候、百姓共えは庄屋方より請取、手形相渡置少も申

此粳貳石

分無御座候以上

納合

米百九拾七石六斗五升三合六勺

明和四年亥十月

永九拾壹貫九百四拾八文壹分

千種六郎右衛門様

外永七拾六文六分

包分銀

御役所

表書之通去戌御年貢米金高、懸物小物成口米永上納令
皆済ニ付、裏書遣之者也

亥十月

千 六郎右衛門^印

一七八 下川辺村年貢皆済目録

○町内下川辺

木下喜作氏所藏

(解説) 安永六年(一七七七)の下川辺村年貢皆済目録
である。下川辺村は幕領地で、当時、飛驒代官所の支配を
受け、この文書は代官から皆済されたという証文である。

申御物成米金皆済目録

美濃国加茂郡

下川邊村

高五百壺石三斗

一米百四拾八石四斗

本途

六升壺合

見共

米七拾七石八斗四升貳合

不熟石代

此代永六拾八貫貳百

但金壺兩ニ付壺石壺斗

四 貢 租

八拾貳文五分

四升

米七拾石六斗壺升九合

米納

一米四石四斗五升四合

口米

此代永五貫貳百

但三分二値段金壺兩ニ付
米八斗五升三合三勺貳
才

拾九文六分

一米七石五斗壺升九合

小物成

此代永拾壺貫

但小物成値段金壺兩ニ付
米六斗七升六勺七才

貳百拾壺文貳分

一米貳斗貳升五合

右口米

此代永三百三拾

但右同値段

五文五分

一永貳百拾九文壺分

小物成

一永六文六分

右口永

一米三斗壺合

御伝馬宿入用

此代永三百

但三分一値段金壺兩ニ付
米九斗貳升六勺七才

貳拾六文九分

一米壺合

六尺給

此代永壺文壺分

一永八分

御藏前入用

一稗貳拾石九斗五升

御囲置稗御払代

四五五

第二部 文書の部

此代永五貫七百

但金壹兩ニ付四石替

三拾七文五分

一米拾四石

午御囲粃摺立米

此粃貳拾八石

但五人増之積

米七石五升

新米引替米納

内

米六石九斗五升

石代金納

此代永六貫三百七拾貳文貳分

一米八合三勺

去未置居米

合 米七拾七石六斗七升七合三勺

永九拾七貫七百拾三文

此払

粃貳拾八石

御囲粃郷蔵詰

此米拾四石

米貳拾石壹斗五升

御膳粃増代米

粃四石

熨田御詰粃

此米貳石

米四石三斗貳升

同増代米

粃三石五斗

御貯粃郷蔵給

此米壹石七斗五升

米三石七斗八升

同増代米

米壹斗九升五合

太餅粃三割増米

米貳斗八升貳合貳勺

御膳粃太餅粃江戸廻
五里外賃米

米貳拾四石六斗

西春役御普請扶持渡

三升七合五勺

米六石貳斗貳升七合五勺

置米残

小以米七拾七石三斗四升貳合貳勺

内米八石六升四合九勺

不足米之内石神村より

渡

納合

米八石四斗

米七石七斗五升

此粃拾五石五斗

米六斗五升

此粃壹石三斗

永九拾七貫七百拾三文

外永八拾三文四分

外

一金壹兩永三拾貳文八厘

一金三分

辰より申迄五ヶ年賦
夫食拝借返納
申年分
元御広舗御貸付割合

小以金壹兩三分永三拾貳文八厘

外永壹文五分

包分銀

外

一粃四石

未焚田御詰粃

一粃三石五斗

未御貯粃郷藏詰

右は去申御物成本途、並見取口米永高懸り小物成、其外とも米金書面之通、令皆済相違無之ニ付、小手形引上一紙目録相渡者也

安永六年酉十月

大彦四郎^⑨

右村

庄屋

年寄

惣百姓

一七九 下川辺村年貢皆済目録

○町内下川辺

木下喜作氏所蔵

四貢租

〔解説〕 寛政二年（一七九〇）の下川辺村年貢皆済目録

である。下川辺村は幕領地で、当時、飛驒代官所の支配を受け、この文書は代官から皆済されたという証文である。

西御年貢皆済目録

高五百壹石三斗

美濃国加茂郡

下川邊村

一米百四拾三石五斗

本途見取共

四升八合

外

一米四石三斗六合

口米

此代永五貫三百

但金壹兩ニ付八斗七合

三拾三文七分

三勺貳才

一米七石五斗壹升九合

小物成

此代永拾貳貫

但金壹兩ニ付米六斗壹

百七拾九文六分

升七合三勺四才

一米貳斗貳升六合

右口米

此代永三百六拾六文

但右同値段

壹分

一永貳百拾九文壹分

小物成

一永六文六分

右口永

四五七

一米三斗壹合

御伝馬宿入用

此代永三百四拾七文

但金壹兩二付米八斗六升七合三勺四才

一米壹合

六尺給

此代永壹文貳分

但右同値段

一永八分

御蔵前入用

一永拾九貫八百三拾九文

稗代御貸付

四分貳厘三毛

一永壹貫九百八拾三文

右利金

九分四厘貳毛

一稗貳拾壹石四斗貳升六合

御囲稗郷蔵詰

一米拾五石五斗

午焚田詰粃摺替

此粃三拾壹石

一米拾壹石七斗五升

午貯粃摺替

此粃貳拾三石五斗

一粃壹斗三升壹合

申貯夫食御差加

米百七拾石七斗九升八合

合 粃壹斗三升壹合

稗貳拾壹石四斗貳升六合

永四拾貫貳百七拾七文四分六厘五毛

此払

米貳拾八石九斗九升

御膳粃増代米

粃四石壹斗

焚田御詰粃

此米貳石五斗

米四石四斗貳升八合

右増代米

粃四石

御貯粃郷蔵詰

此米貳石

米四石三斗貳升

右増代米

米貳斗五升貳合

太餅粃三割増

米四斗貳合九勺

御膳粃太餅粃
五里外賃米

米貳石三斗九升貳合壹勺

御廻米
右同断

粃壹斗三升壹合

申年
貯夫食え御差加

米六升五合五勺

酉年
右同断

此粃壹斗三升壹合

永拾九貫八百三拾九文

四分貳厘三毛

稗代御貸付

稗貳拾壹石四斗貳升六合

御囲稗郷蔵詰

稗

御囲置稗

此代永壹貫九百八拾三文九分四厘貳毛

米四拾四石九斗五勺

小以 粃壹斗三升壹合

稗

永貳拾壹貫八百貳拾三文三分六厘五毛

納合

米百貳拾五石八斗九升七合五勺

内

米拾壹石壹斗五升

御膳粃

此粃貳拾貳石三斗

米八斗六升

太餅粃

此粃壹石六斗八升

米百拾三石九斗

御廻米

七合五勺

永拾八貫四百五拾四文壹分

外永拾五文四分

包分銀

外

元金九兩永百六拾六文七分
一金壹分永百六拾六文

寅より亥迄貳拾貳ヶ年賦
元御広敷御貸附返納

六分六厘八毛

一金貳分永貳百三拾

酉より寅迄三拾ヶ年賦
夫食代返納

四文九分

小以金壹兩永百五拾壹文五分六厘八毛

四 貢 租

外永壹文

包分銀

一粃貳拾七石五斗

未焚田御詰粃

一粃貳拾貳石

未御貯粃郷藏詰

一粃拾石

申焚田御膳詰

一粃八石五斗

申御貯粃郷藏詰

右は去酉御年貢米金、書面之通令皆済ニ付、小手形引
上一紙目錄相渡者也

寛政二戌年四月

飯 常之丞④

右村

庄 屋

年 寄

惣百姓

一八〇 鹿塩村年貢皆済目錄

○町内鹿塩

鹿塩区所蔵

(解説) 寛政六年(一七九四)の鹿塩村上組の年貢皆済

四五九

第二部 文書の部

四六〇

目録である。鹿塩村は幕領地で、当時、飛驒代官所の支配を受け、この文書は代官から皆済されたという証文である。

去丑御年貢皆済目録

濃州加茂郡

鹿塩村
佐藤次組

高式百式拾四石五斗六升式合

一米七拾三石式斗四升六合

一米三斗六升四合

外

一米式石式斗八合

此代永式貫九百

六拾三文五分

一米式石

此代永三貫六百

六拾三文七分

一米六斗

此代永百九文九分

一永四百六拾八文壹分

一永拾四文

一米壹斗三升五合

此代永百六拾九文六分

一米四斗四升九合

此代永五百

六拾四文壹分

一永五百六拾壹文四分

一粳式斗四升三合

米七拾三石六斗壹升

合粳式斗四升三合

永八貫五百拾四文三分

此弘

粳式斗四升三合

米壹石五斗四升

米壹斗三升七合

米壹斗式升三合九勺

米五升四勺

米壹石四斗三升

六合六勺

小以 粳式斗四升三合

米三石式斗八升七合九勺

納合米七拾石三斗式升式合壹勺

六尺給

但右同値段

御蔵前入用

申酉戌三ヶ年分
貯夫食え御下穀

申酉戌三ヶ年

貯夫食え御下穀

御膳粳増代米渡

御廻粳増代米渡

太餅米三割増渡

御膳粳御廻粳
五里外賃米渡

御廻米
右同断渡

米壹石

御膳粳

庄屋

此粳貳石

年寄

米五斗

御廻粳

百姓代

此粳壹石

米四斗壹升三合

太餅米

米六拾八石四斗

御廻米

九合壹勺

永八貫五百拾四文三分

外永七文壹分

包分銀

外

一永三百三拾貳文四分

酉壹ヶ年延戌より卯迄三拾ヶ年賦
夫食代返納

外永三分

包分銀

一粳壹石五斗

戌笠松詰粳

一同貳石

子右同断

一粳三石五斗

高百五拾石六斗三升

亥御年貢皆済目録

鹿塩村
下組

右は去丑御年貢本途高掛物共、

書面之通令皆済ニ付、

一米五拾壹石三斗三合

本途

小手形引上一紙目録相渡者也

一米壹斗九升七合

見取

寛政六寅年四月

外

飯 常之丞印

一米壹石五斗四升五合

口米

右村

此代永壹貫七百

但三分二値段金壹両ニ

四 貢 租

四六一

一八一 鹿塩村年貢皆済目録

○町内鹿塩

鹿塩区所蔵

〔解説〕 文化元年（一八〇四）の鹿塩村下組の年貢皆済目録である。鹿塩村は幕領地で、当時、飛驒代官所の支配を受け、この文書は代官から皆済されたという証文である。

六拾四文五分

付米八斗七升五合六勺

米壹石壹斗五升五合

御膳粳増代米渡但御粳

一米五斗壹升五合

小物成

米貳斗六升

壹石ニ付米七斗七升

此代永七百三拾九文

但金壹両ニ付米六斗九

米貳斗六升

御廻粳増代米渡但御粳

三分

升六合六勺五才

一米壹升五合

右口米

米貳斗六升

御廻粳増代米渡但壹石

此代永貳拾壹文五分

但右同値段

米八升貳合五勺

ニ付米五斗貳升

一永百貳拾六文五分

小物成

米八升貳合五勺

太餅米三割増渡御膳粳

一永三文八分

右口米

御廻粳但壹石ニ付米三

一米九斗

御伝馬宿入用

斗

此代永九拾五文壹分

但三分一金壹両ニ付米

米三升三合六勺

五里外賃米渡御廻米但

九斗四升六合六勺八才

米九斗九升八合貳勺

壹石ニ付米貳升五合

一米三斗壹合

六尺給

米九斗九升八合貳勺

五里外賃米渡但壹石ニ

此代永三百拾八文

但右同値段

米九斗九升八合貳勺

付米貳升三合

一永三百七拾六文六分

御蔵前入用

粳三斗貳升貳合壹勺

笠松御蔵御詰足粳

一粳壹斗七升八合

貯夫食え御下穀

此米壹斗六升壹合五才

米五拾壹石五斗

御蔵前入用

小以

合粳壹斗七升八合

貯夫食え御下穀

米貳石六斗九升三勺五才

永三貫四百四拾五文三分

貯夫食え御下穀

粳壹斗七升八合

此払

貯夫食え御下穀

納合米四拾八石八斗九合六勺五才

粳壹斗七升八合

貯夫食え御下穀

米七斗五升

御膳粳

申酉戌三ヶ年

此粃壹石五斗

米貳斗五升

此粃五斗

内米貳斗七升五合

此代永三百八拾

八文九分

米四拾七石五斗三升

四合六勺五才

永三貫四百四拾五文三分

外永貳文九分

外

一 永貳百貳拾三文

外永貳分

一 粃八斗七升壹合貳勺

一 粃壹斗貳升八合八勺

一 粃壹石三斗六合七勺

一 粃壹斗九升三合三勺

御廻粃

太餅米買納

但拾五石ニ付金四拾九

兩貳分替

御廻米

包分銀

酉壹ヶ年延戌より卯迄

三拾ヶ年夫食代返納

包分銀

戌笠松御詰粃

同御詰当亥扇立欠減之

分御詰足粃

子笠松御詰粃

同御詰米当亥扇立欠減

之分御詰足粃

小以粃貳石五斗

右は去亥御年貢本途小物成高掛物、其外共令皆済ニ付、
小手形引上一紙目錄相渡之候、然上は重て小手形出候
共可為反古者也

文化元子年四月

田 五郎左衛門[㊦]

右村

庄 屋

年 寄

百姓代

一八二 石神村年貢皆済目錄

○町内石神

石神区所蔵

(解説) 天保五年(一八三四)の石神村年貢皆済目錄で

ある。石神村は幕領地で、当時、飛驒代官所の支配を受け、
この文書は代官から皆済されたという証文である。

已御年貢皆済目録

美濃国加茂郡
石神村

高五百八拾五石九斗

一米百五拾九石七斗

本途

五升四合

一米四石七斗九升三合

口米

一米貳石五斗

小物成

一米七升五合

右口米

一米貳拾七文三分

小もの成

一米百拾五文

当已より酉迄五ヶ年季

一米四文三分

右口永

一米三斗五升貳合

御伝馬宿入用

此代永八百八拾

但三分一値段金壹兩ニ

八文壹分

付米三斗九升六合三勺

三才

一米壹石壹斗七升貳合

六尺給米

一永壹貫四百六拾四文八分

御蔵前入用

一粃貳斗八升五合

貯夫食御下穀

一稗三石九斗八升七合八勺

文化元子同五利金を以御買入之分
御囲稗郷蔵給

外稗拾五石九斗

戌亥子卯四ヶ年糶ニ詰

五升壹合貳勺

候分

一粃六石九斗七升貳合五勺

右同断粃ニ引替笠松御

蔵ニ詰之分

内粃壹石五斗三升

去々卯詰替候分

貳合三勺

口永不掛
一永六貫文

稗代御貸附金

右同断
一永三百文

右利息

一米貳斗九升四合五勺

辰置居米

米百六拾八石五斗八升八合五勺

合
粃七石貳斗五升七合五勺

稗三石九斗八升七合八勺

此払

粃貳斗八升五合

申酉戌三ヶ年
貯夫食御下穀

永六貫文

稗代御貸附元金

稗三石九斗八升

御囲稗郷蔵詰

七合八勺

粃六石九斗七升

右同断粃ニ引替

貳合五勺

笠松御蔵詰之分

米三斗貳升三合七勺

太餅米三割増米

米拾三石九斗四升 御膳粳増代米

米四斗壹升貳合五勺 御廻粳右同断

米貳斗三升八合六勺 御膳御廻粳

米貳石三斗七升 五里外貸米
御廻米
右同断

四合六勺

米拾七石貳斗八升九合四勺

小以 粳七石貳斗五升七合五勺

稗三石九斗八升七合八勺

永六貫文

米百五拾壹石貳斗九升九合壹勺

米八石五斗 御膳粳

此粳拾七石

米三斗七升五合 御廻粳

此粳七斗五升

納合米壹石七升九合 太餅米買納

此代永三貫六百 但米三拾五石ニ付金百

三拾七文八分 拾八兩替

米百四拾壹石三斗 御廻米

四升五石壹勺

永貳貫七百九拾九文五分

四貢租

内永三百文 包分銀不掛

外永貳文壹分 包分銀

外

一粳七石八斗八升四合 笠松御膳粳

右は去巳御年貢本途其外共、書面之通令皆済ニ付、小手形引上ケ一紙目錄相渡条、重て小手形差出候共、可為反古もの也

天保五年年三月

大 帶刀印

右村

庄 屋

年 寄

惣百姓

一八三 石神村年貢皆済目錄

○町内石神

石神区所蔵

(解説) 弘化二年(一八四五)の石神村年貢皆済目錄で

ある。石神村は幕領地で、当時、美濃代官所の支配を受け、この文書は代官から皆済されたという証文である。

辰御年貢皆済目録

濃州加茂郡

石神村

高五百八拾五石九斗

一米百六拾石七斗貳升壹合

本途

一米貳石五斗

小物成

一米四石八斗九升七合

口米

一米貳拾七文三分

小物成

一米百貳拾八文

卯より未迄五ヶ年季
荷物継場冥加永

一米四文七分

口永

一米三斗五升貳合

御伝馬宿入用

代永五百九拾八文五分

一米壹石壹斗七升貳合

六尺給米

一米壹貫四百六拾四文八分

御蔵前入用

一米三石九斗四升貳合

笠松御囲粃

此粃七石八斗四合

一米壹斗四升貳合五勺

申酉戌貯穀

此粃貳斗八升五合

二十分一御下穀

一米百三拾壹文八分

寅御廻米出張所入用

合 米百七拾三石三斗七升四合五勺

永貳貫三百五拾五文壹分

此払

米三石九斗四升貳合

笠松御囲粃

此粃七石八斗

八升四合

米壹斗四升貳合五勺

貯穀二十分一御下穀

此粃貳斗八升五合

米貳斗七升三合

太餅米三割増

米四石九斗貳升

御膳粃割増

米貳斗七升五合

御廻粃同断

米八升七合壹勺

壹升三合四勺
御廻粃五厘外賃

米貳石六斗三升

壹升六合八勺
御廻米同断

六合六勺

小以米拾貳石貳斗七升六合貳勺

納合米百六拾壹石九斗八合三勺

内

米三石

御膳粃

此粃六石

米貳斗五升

御廻粃

此粃五斗

米九斗壹升

太餅米

米百五拾六石九斗

御廻米

三升八合三勺

永式貫三百五拾五文壹分

外永式文

包分銀

右は去辰御年貢其外書面之通令皆済ニ付、小手形引上一紙目錄相渡上は、重て小手形差出候共、可為反古もの也

弘化二巳年四月

善之丞印

右村

庄屋

年寄

百姓代

一八四 下川辺村年貢皆済目錄

○町内下川辺

木下喜作氏所蔵

四 貢 租

(解説) 文久三年(一八六三)の下川辺村年貢皆済目錄

である。下川辺村は幕領地で、当時、美濃代官所の支配を受け、この文書は代官から皆済されたという証文である。

戌御年貢皆済目錄

高五百壹石三斗

濃州加茂郡

下川邊村

一米百六拾九石八斗六升六合 本途見取

内米式斗三升三合 見取

一米七石五斗壹升九合 小もの成

一米五石三斗式升式合 口米

一永式百拾九文壹分 小もの成

一永百四拾三文 当戌より寅迄五ヶ年季 荷物継場冥加永

内永五文 切替増

一永拾文九分 口永

一米三斗壹合 御伝馬宿入用

代永壹貫拾四文

掛高三斗

外高五百壹石 助郷高免除

一米壹合 六尺給米

掛高外高右同断

一 永八分

御蔵前入用

一米貳石九斗八升六合

笠松御囲糶

此糶五石九斗六升貳合

納合米百四拾七石四斗九升三合壹勺

一米壹斗九升六合五勺

申酉戌貯穀

此糶三斗九升三合

二十分一御下穀

一 永百六拾文六文

申御廻米出張所入用

合 米百八拾五石八斗九升五勺

永壹貫五百四拾八文四分

此弘

壹升八合壹勺

米貳石九斗八升六合

笠松御囲糶

此糶五石九斗七升貳合

外永九分

包分銀

米壹斗九升六合五勺

貯穀廿分一御下穀

此糶三斗九升三合

米貳斗三升貳合五勺

太餅米三割増

代永四百貳拾貳文

文久三亥年四月

米拾壹石四斗八升

御膳糶割増

米壹斗八升七合六勺

御糶五里外賃

米貳石三斗四升

米壹升六合八勺

七合三勺

米貳拾壹石貳斗

置米

小以 米三拾八石三斗九升七合四勺

永四百貳拾貳文

内

米七石

御膳

此糶拾四石

米七斗七升五合

太餅米

米百三拾九石七斗

御廻米

永壹貫百貳拾六文四分

右は去戌御年貢本途其外とも、書面之通令皆済ニ付、

小手形引上ケ一紙目録相渡上は、重て何様之手形差出

候とも可為反古者也

岩 鋏三郎印

右村

庄 屋

年 寄

百姓代

一八五 鹿塩村年貢皆済目録

○町内鹿塩

鹿塩区所蔵

一 永五百六拾壹文四分 御蔵前入用

一 米壹斗貳升壹合五勺 申酉戌貯穀二十分一御

下穀

此粃貳斗四升三合

一 永七拾四文七分 戌御廻米出張所入用

合 米七拾六石五斗五升壹合五勺

永壹貫七百拾七文三分

此払

米壹斗貳升壹合五勺 貯穀二十分一御下穀

此粃貳斗四升三合

米壹斗貳合 太餅米三割増

代永貳百貳拾貳文貳分 御廻米五里外賃

米壹石貳斗五升七合貳勺

小以 米壹石三斗七升八合七勺

永貳百貳拾貳文貳分

納合米七拾五石壹斗七升貳合八勺

内

米三斗四升 太餅米

米七拾四石八斗三升 御廻米

貳合八勺

(解説) 慶応元年(一八六五)の鹿塩村上組の年貢皆済目録である。鹿塩村は幕領地で、当時、美濃代官所の支配を受け、この文書は代官から皆済されたという証文である。

子御年貢皆済目録

濃州加茂郡

鹿塩村上組

高貳百貳拾四石五斗六升貳合
一米七拾壹石七斗六升八合 本途見取

内米四斗七升八合 見取

一米貳石 小物成

一米貳石貳斗壹升三合 口米

一 永四百六拾八文壹分 小物成

一 永拾四文 口米

一米壹斗三升五合 御伝馬宿入用

代永六百五拾九文壹分

一米四斗四升九合 六尺給米

内

米貳拾三石

大坂

米五拾壹石八斗

江戸

三升貳合八勺

永壹貫五百五拾五文壹分

外永壹文三分

包分銀

右は去子御年貢本途其外共書面之通令皆済ニ付、小手形引上一紙目錄相渡上は、重て何様之手形差出候共、可為反古者也

慶応元丑年四月

右村

岩 鋏三郎印

庄 屋

年 寄

百姓代

V 調達金・献金

一八六 御用金証文

○川辺町所蔵
(西村家文書)

〔解説〕 天明二年（一七八二）の御用金証文である。大嶋氏の息女の支度金として提出したもので、代わりに向う一〇か年間、年貢から差し引くよう家臣名で指示した証文である。

証文之事

一金貳拾五両也

右は御姫様方御片付、御支度為御用金差上之請取申候、依之拾ヶ年之内、其表御所務米之内より、米三石壹斗貳升五合宛年々可被下置候間、其段相心得可申候、尤拾ヶ年相立候上は証文上納可申候、仍請取証文如件

天明二寅年七月

箕田直之丞^印

後藤理左衛門^印

渡邊真右衛門^印

川邊天王町

才三郎との

一金拾六兩三分也

九右衛門

九兵衛

伊助

徳兵衛

九助

一金拾兩也

高ノ金四拾壹兩三分也

右は当巳九月駿府御在番御勤先御用金並、御姫様御片付御支度御用金之内、右之通差上之請取申候、依之当巳年より来ル寅年迄拾ヶ年之内、金百兩ニ付壹ヶ年ニ御米拾五石之割を以、可被下置候間、其段相心得可申候、尤十ヶ年相立候上ハ此証文上納可申候、仍請取証文如件

天明五巳年九月

三木左内^印

桑原嘉右衛門^印

箕田要左衛門^印

渡邊真右衛門^印

後藤理左衛門^印

〔解説〕 天明五年（一七八五）の御用金証文である。大

嶋氏の駿府（静岡市）勤務と、息女の支度金として柅井村の八名が提出したもので、代わりに向う一〇か年間、金額に応じて年貢から差し引くようにとある。

一八七 御用金証文

○町内西柅井

井戸鍵雄氏所蔵

証文之事

一金拾五兩也

弥兵衛

徳右衛門

儀右衛門

弥兵衛との

徳右衛門との

四 貢 租

四七一

儀右衛門との
九右衛門との
九兵衛との
伊 助との
徳兵衛との
九 助との

一八八 御定用金一札

○町内中川辺

矢嶋弓男氏所蔵

〔解説〕 寛政一二年（一八〇〇）の御用金割合の請書である。大嶋氏の不時の御用金は、今後、三知行所（摂津・関・川辺）で割り当てることに對する請書である。

差上申一札之事

今般私共兩人え当御領内御成箇、当申年より来ル子年迄五ヶ年之内御引渡被成候、別紙御書付月割之通御定用金差下可申旨、不時御用金之儀は、以来三ヶ所御知

行所割合を以可被仰付旨、委細御趣意之趣奉得其意候、右御請書仍て如件

寛政十二年申四月

箕田要左衛門殿
古市武右衛門殿

庄屋
吉兵衛
矢嶋専右衛門

一八九 先納金証文

○町内中川辺

矢嶋弓男氏所蔵

〔解説〕 文化一一年（一八一四）の先納金証文である。大嶋氏の若殿付け人用の騎馬購入金を提出したもので、代金は為替金と、収納米代金にて充当するようにとある。

先納証文之事

一金拾五両也
内 金七両貳分は十二月下金之内にて為替取組候事

残て

金七両貳分也

右は此度若殿様御小人騎馬、御入用ニ付被差上之相受
取申候、右代金之儀当暮御收納米代金を以、御勘定可
被相立候、為後日先納証文仍如件

文化十一年九月

山本 仲印

病氣ニ付無印形
助川弥一左衛門

羽渕与惣右衛門印

大嶋三郎右衛門印

矢嶋六左衛門殿

矢嶋仁左衛門殿

一九〇 御入用金覚書

○川辺町所蔵
(西村家文書)

(解説) 文化一二年(一八一五)の御入用金証文である。

大嶋氏の息女婚礼用として借用したもので、返済は四か年
賦、元利共とある証文である。

四 貢 租

覚

一金五拾両也

右は此度御姫様御婚礼御支度御入用ニ付、御借入被成
候処実正也、但シ御返済之儀は、来ル子之暮より閏卯
暮迄四ヶ年之間、毎年金拾五両宛都合金六拾両也、右
之通御下ヶ金可被下置段、毛頭御違乱有之間敷候、為
其証文如件

文化十二年亥七月

川邊村庄屋

才三郎殿

羽渕与惣右衛門印

大嶋三郎右衛門印

一九一 御用金覚書

○川辺町所蔵
(西村家文書)

(解説) 文化一四年(一八一七)の御入用金覚書である。

大嶋氏子息の縁組支度金として命じたもので、家臣からの
催促状とともとれる書状である。

四七三

覚

一金四拾両也

右は此度経之助様御縁組御支度金之内、御用金被仰付
差上之、出情之段可達御聴ニ候已上

文化十四丑年四月

古市 千右衛門

大嶋三郎右衛門

西村才三郎殿

一九二 御入用金請書

○町内中川辺

矢嶋弓男氏所蔵

(解説) 文化一四年(一八一七)の御入用金請書である。

大嶋氏子息の縁組入用金として、表記の金額を提出する旨
の請書である。

奉差上御請書之事

一金八両也

右は此度経之助様御縁組御入用金之内、書面之通り調
達金被仰付奉畏候、依是御請書奉差上候処、依て如伴
文化十四丑年五月

栃井村金主

助 印

親類

九左衛門 印

庄屋

得右衛門 印

御役所

一九三 御用金覚書

○川辺町所蔵
(西村家文書)

(解説) 文政元年(一八一八)の御用金覚書である。大
嶋氏子息の縁組御用金を提出したときの、家臣からの返書
で、史料一九〇に関係した文書である。

覚

一金四拾両也

右此度御用金被仰付候処、書面之通差上之御満悦之御

事二候

文政元戊寅年八月

大嶋三郎右衛門
山本治郎
後藤理左衛門
三沢良太夫
西村才三郎殿

右は当春御近火ニ付、御臨時金差下無相違請取申候、
当暮御収納米代金を以、御勘定可被相立候、為後証仍
如件

文政十二丑年三月

箕田源藏印
野田對助印
三澤良太夫印
後藤唯之丞印

一九四 先納金証文

○町内中川辺

矢嶋弓男氏所蔵

矢嶋仁右衛門殿

矢嶋甚兵衛殿

西村十右衛門殿

（解説） 文政一二年（一八二九）の先納金証文である。

大嶋氏江戸屋敷付近に火災があり、見舞金などの費用を臨時金として提出したときの受取で、後日収納米代金から差し引くようにとある。

一九五 先納金証文

○町内中川辺

矢嶋弓男氏所蔵

（解説） 文政一二年（一八二九）の先納金証文である。

大嶋氏の諸費用を先納させたもので、収納米代金から差し引くよう指示がしてある。

一金貳拾両也

先納証文之事

四 貢 租

四七五

先納証文之事

一金百両は

内

金三両貳分

丑十二月御定用也

辰年より寅年迄御年済金引

同拾貳両貳分式朱

山田金百両之利足並入用共

差引

金八拾三両三分式朱

右之通被差下請取申候、御收納米代金を以、御勘定可

被相立候、為後証仍如件

文政十二丑年十二月

箕田源藏^印

野田對助^印

三澤良太夫^印

後藤唯之丞^印

矢嶋仁右衛門殿

矢嶋甚兵衛殿

西村十右衛門殿

一九六 国役金割合

○川辺町所蔵
(西村家文書)

(解説) 天保二年(一八三一)の国役金割合である。堤

防・道路の修繕のため、一国全体に賦課した臨時の課役で、この文書は大嶋氏領地の、三か村の割り付けである。

(封書)

国役金割合

高式千八百三拾五石九斗三升

一金拾壹両貳分

外

永三拾三文三分

永九文六分

×四拾貳文九分

包分銀

内

此銀貳匁五分七厘四毛

金三両壹分ト永貳百拾文 人足六百九拾人

此銀拾貳匁六分

扶持米三石四斗六升

引残

金八両ト銀四匁九分七厘四毛

壹石ニ付壹七匁〇壹

高八百四拾七石九斗四升五合

川邊村

此当り銀百四拾五両壹厘

此金貳両壹分式朱ト銀貳匁五分壹り

此貳百八拾五文

高四百九石七升四合

栃井村

此当り銀六拾九匁九分五厘壹毛

此金壹兩貳朱ト銀貳匁四分五厘

此貳百七拾九文

高千五百七拾八石九斗三升八合

関村

此当り貳百七拾匁壹厘四毛

此金四兩貳分ト壹厘四毛

此壹文

右之通十一月十六日限上納申来候ニ付、西村才右衛門
十五日朝笠松役所え罷出相納申候

天保貳卯十一月

一九七 御入用金証文

○川辺町所蔵
(西村家文書)

(解説) 天保四年(一八三三)の御入用金証文である。
昨年一二月に領主から要請があったが、実際に提出したのは半年後で、しかも要求金額の半額であった。

覚

一金拾兩は

右旧臘御役御入用金貳拾兩上納之内、書面之通請取申
候、為後日之仍如件

天保四巳年七月

箕田要左衛門印

野田對助印

三澤良太夫印

後藤唯之丞印

西村才右衛門殿

一九八 御用金送金遅延詫状

○町内中川辺

矢嶋弓男氏所蔵

(解説) 安政二年(一八五五)の江戸送金詫状である。
川辺から大嶋江戸屋敷への送金が遅延したが、安政元年一
月の東海大地震によって、街道の交通が混乱し、飛脚人
も怪我をしながら、やっと江戸に到着した状況が記載して

ある。そのため、御用金が期日に間にあわなかったことに對する詫び状である。

乍恐御詫奉申上候御事

去寅年十一月二日江戸表御屋鋪様え御用金差出、則私え被為仰付難有仕合ニ奉存候、早速差立申候処、同月四日辰中刻大地震ニて、則右持行申候飛脚之者、遠州路え参候処右地震ニて、同地不殘崩家ニ相成、死人怪我人夥敷、飛脚之者も怪我仕、同刻より其上出火致申候ニ付、夫々銘々荷物等取片付仕候得共、何分宿中ハ勿論隣宿前後、駿州路迄宿々同様之事ニて、其上荒井宿、其外川々之儀ハ連浪等ニて、是又流家死人等相成、人馬繼立等之儀ハ更ニ行届不申、乍恐御公儀様御用等も右同様之始末、誠ニ前代未聞之成行恐敷事ニ奉存候、右ニ付持行申候飛脚之者も、無抛荷物を守護仕、怪我致居申候得共、野宿仕日数を送り申候、其内ニ夫々御領主様より、御手当等も被下置日数相立申候て、漸ニ一宿程ツツ歩行越仕候次第、依之江戸着大延引仕誠以奉恐入候、其段江戸御屋鋪様えも、其御詫奉申上候儀御座処、其御国許え御詫ニ罷出可申候筈ニ御座候処、

前書通路相止様申候ニ付、早速私えも申越候儀、不行届承方及延引、且又私儀其地震之節、私宅損所多分ニ相成崩家同様之事、近辺之儀も同様崩家所々出来仕、並十一月四日連浪等も驚、誠ニ命斗りを心配仕、表往来又ハ町端、田畑広場所え野宿仕、数日を過し申候仕合、依之右御詫等も行届不申、誠ニ以失礼仕候、其外諸家様より被仰付候御品物も、金銀ハ勿論右同様之儀ニ相成、誠ニ以奉恐入候次第ニ御座候、乍去其御役所より被仰付候御用金之儀ハ、至て御差急キ、兼て江戸表御屋鋪様ニも、御手当ニ被遊候処、御用之差支相成甚以奉恐入、此段何奉申上様も、無御座次第御氣之毒仕候、右之段ハ幾重ニも御詫奉申上度、何卒格別之憐愍を以御赦免被成下置、已前之通不相替、御用沢山ニ被仰付、被成下置候様仕度奉願上候、右奉願上度御詫申上候、御聞濟被成下置、御用被仰付被下置候ハ、以御陰私共家内養育出来仕、色々難有仕合可奉存候以上

安政二年卯五月

御用達宿

貝谷権右衛門印

中川邊

御役所

一九九 江戸表臨時金書上帳

○川辺町所蔵
(西村家文書)

(解説) 安政二年(一八五五)の江戸表臨時金書上帳である。弘化二年(一八四五)以降の、川辺から大嶋氏に提出した臨時金の内訳で、一一年間で多額の金額を送金しているが、財政面の厳しさをうかがわせている。

(表紙)

安政二年

弘化二巳より安政二卯八月迄

御臨時金江戸表え書上帳

卯八月廿八日改

奉差上候書付之事

御臨時金覚

一金三百六拾両貳分

嘉永三戌年川邊より差

下候ノ高

一金百八拾両貳朱

嘉永四亥年川邊より差

四 貢 租

一金三百四拾六両

下候ノ高

嘉永五子年川邊より差

下候ノ高

一金貳百七拾三両貳分

嘉永六丑年川邊より差

下候ノ高

一金貳百五拾七両三分

嘉永七寅年川邊より差

下候ノ高

一金三拾壹両

安政二卯年八月迄川邊

より差下候ノ高

ノ金千四百四拾八両三分貳朱

右之通戌年より卯年八月迄御臨時金、今般取調書付奉差上候以上

安政二卯年八月

西村才右衛門

矢嶋八右衛門

大嶋友之丞殿

後藤彦八殿

羽瀧重兵衛殿

助川善司殿

大嶋八三郎殿

箕田 市郎殿

奉差上候書付之事

御臨時金覺

一金貳百貳拾貳両三分

弘化二巳年川邊より差

下候ノ高

一金百九拾九両貳分貳朱

弘化三年川邊より差

下候ノ高

一金九拾八両貳分

弘化四年川邊より差

下候ノ高

一金九拾八両貳分

嘉永元年申年川邊より差

下候ノ高

一金百七拾七両

嘉永二酉年川邊より差

下候ノ高

ノ高七百九拾六両壹分貳朱

右之通去巳年より酉年迄御臨時金、今般取調書付奉差

上候以上

安政二卯年八月廿八日

西村才右衛門

矢嶋八右衛門

大嶋友之丞殿

後藤彦八殿

羽渕重兵衛殿

助川善司殿

大嶋八三郎殿

箕田 市郎殿

二〇〇 先納金証文

○川辺町所蔵
(西村家文書)

(解説) 安政三年(一八五六)の先納金証文である。大

嶋氏奥方の服料を、川辺など三か所に割り当てたもので、

少額の金額でも、割り当てを必要とした財政事情をうかが

わせるものがある。

先納証文之事

一金壹両貳分

奥様御服料増金五両、

三ヶ所割川邊出金七月

分

右之通御差下無相違受取申候、当暮御收納米代金を以、勘定可被相立候、為後日仍如件

安政三辰年七月

助川 善司^印

箕田 市郎^印

大嶋 八三郎^印

羽瀧 重兵衛^印

後藤 彦八^印

矢嶋 八右衛門殿

西村 才右衛門殿

西村 甚三郎殿

一金廿五両也

但當未より来亥迄元金御返金被下候事

右は今度調達金被仰付候處、書面之通差上之御満悦之事候以上

未十月

箕田 新^印

野田 對造^印

三澤 良太夫^印

後藤 治部介^印

大嶋 三郎右衛門^印

西村 才三郎殿

二〇一 調達金覚書

○川辺町所蔵
(西村家文書)

(解説) 年号は不詳であるが、大嶋氏調達金覚書であり、金額を提出し、これに対して家臣からの返書である。

覚

四 貢 租